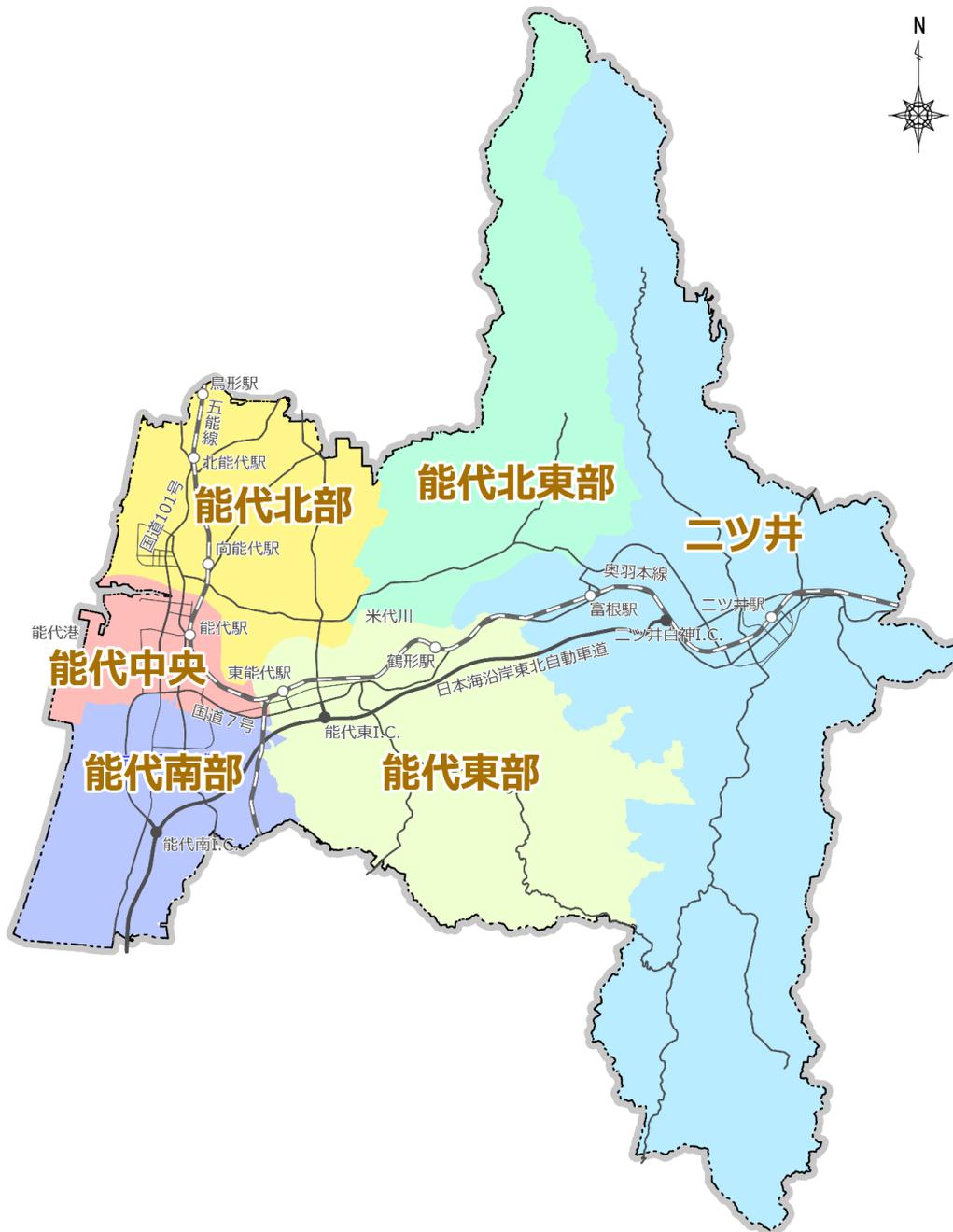


第5章. 地域別構想【都市計画マスタープラン】

第5章. 地域別構想【都市計画マスタープラン】

- 地域別構想は、市内6地域ごとに、地域の現況、アンケート調査や地域別ワークショップ等による住民意向、課題等を踏まえ、将来の地域のまちづくりの方向性を示すものです。
- 各地域の地域づくりの方針は、市全体のまちづくりの将来像や目標、全体構想に基づき、各地域の特性と関連するものを位置づけます。
- 地域別構想は、地域の特性、土地利用、コミュニティなどを考慮し、中学校区を基本として、能代中央（能代第一・能代第二中学校区）、能代北部（東雲中学校区）、能代北東部（旧常盤中学校区）、能代東部（能代東中学校区）、能代南部（能代南中学校区）、二ツ井（二ツ井中学校区）の6地域に区分して計画します。

図 地域区分図



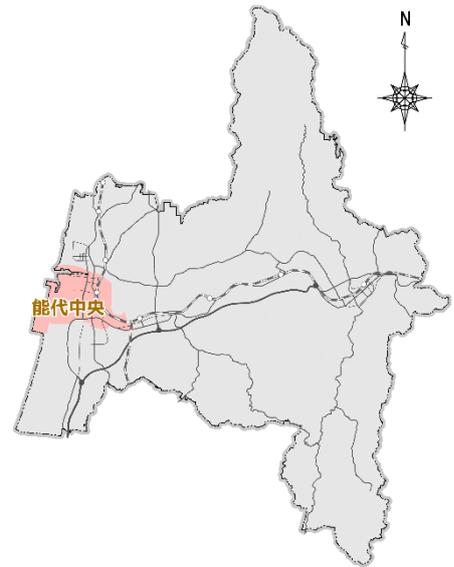
～地域別ワークショップの結果～

- ・ 都市計画マスタープランでは、市域を、現行の計画と同様に、旧中学校区を基本とした次の6地域に区分することとしており、地域の代表者に集まっていただき、それぞれの地域のまちづくりについて意見交換を行いました。
- ・ ワークショップは計3回にわたり行い、地域の将来の姿について取りまとめました。
 - 第1回：令和3年5月書面開催
 - 第2回：6月22・23日
 - 第3回：7月15・16日
 ※第2回、第3回は6地域を3地域ずつに分けて各回2日間開催しました。

【ワークショップで取りまとめた内容】

	地域特性など (△＝強み・弱み、◆＝災害リスク)	取り組み・方向性のアイデア
能代中央	△空き店舗が多い、空き家の荒廃	空き店舗をPRし、利用希望者とマッチング
	△住人同士仲が良い	前向きな意見を言い合える関係性の構築、まちづくりの関係者を増やす
	◆どこが危険なのかわからない	市の出前講座で、ハザードマップを周知・理解促進
	◆高齢者が多く、避難時の移動が心配	災害を想定した訓練が必要(自治会ごとなど)
能代北部	△総合病院の立地やスポーツ施設のにぎわい	病院・温泉・スポーツ施設が連携した拠点形成
	△落合浜にゴミが多い	ボランティアで清掃活動
	◆市街地の道が狭い	避難路、通学路を広くする
	◆要支援者は誰が助けに行くのか	避難時の役割分担(行政・住民間)を事前に決めておく
能代北東部	△常盤地区は交通が不便	デマンドタクシーが欲しい
	△空き家の増加(管理不十分)	空き家バンクの登録をし、外部の人を呼び込む
	◆若い人とお年寄りで危機意識が違うかも	自主防災組織の設置と定期的な訓練
	◆何日か過ごせる避難所がない	地区自治会連合会で備蓄庫の内容を確認する
能代東部	△旧東能代中学校跡地の利活用が不透明	旧東能代中学校跡地の活用
	△小・中学校が地域に根差した学校づくりをしている	PTAのつながりが強く、子どもから親のつながりに展開していく
	◆市街地の歩道に縁石がない	通学路としての安全の確保(歩車分離、ポールを設置など)
	◆自治会が防災倉庫を確認している	自治会での防災への取り組み強化(自主防災組織の構築)
能代南部	△買物などがすぐできる	病院や買物などが便利な環境を存続
	△地域の団結力がある	役七夕をきっかけに、昔からのつながりを維持する
	◆内水で県道が通行止めになる	治水工事を早く完了させる
	◆側溝に蓋がないので、避難時、高齢者が危険	市道の整備
ニッ井	△特産品が多い(白神ねぎ、山ウドなど)	白神ねぎを活用し、農業の良さを若い人に伝える(職業として)
	△一人暮らしのお年寄りが多い	元気な高齢者に地域活動の一端を担ってもらう
	◆防災無線が聞こえない	音色で緊急度の違いだけを伝えるなど、改善の工夫を実施
	◆近所付き合いが薄くなってきた	お年寄りやご近所での、声掛け・関係づくり

図 位置図



1. 能代中央地域

1-1. 地域の概況

- 本地域は、米代川の水運、北前船による西廻り海運の要衝として栄え、生活・文化・情報の中心地としての役割を担う中心市街地を有しています。
- 能代駅を中心に、居住機能のほか、商業や文化・交流機能、行政機能が集積しています。また、米代川に面して能代河畔公園が整備されているほか、風の松原や旧料亭金勇など、観光・レクリエーション機能も有しています。

1-2. 地域の現況

(1) 人口動態

- ・ 2015年（平成27年）の人口は約23,300人で、総人口の約40%を占めています。また、用途地域内の人口は約22,600人で、中心市街地を中心に、人口の集積がみられます。
- ・ 2015年の高齢化率は37.8%です。また、用途地域内では38.1%となっており、二ツ井地域に次いで、2番目に高くなっています。

表 人口動態

		H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	備考	
地域全体	面積 [ha]	1,627.73				
	人口 [人]	26,259	24,587	23,370		
	人口増減率 [%]	-	93.6%	89.0%		
	世帯数 [世帯]	10,624	10,409	10,390		
	平均世帯人員 [人/世帯]	2.5	2.4	2.2		
	人口構造 [人]	0～14歳	3,136	2,738	2,247	
		15～64歳	15,472	13,786	12,294	
		65歳以上	7,650	8,064	8,829	
	人口構造 [%]	0～14歳	11.9%	11.1%	9.6%	
		15～64歳	58.9%	56.1%	52.6%	
65歳以上		29.1%	32.8%	37.8%		
用途地域	面積 [ha]	1,078.45				
	人口 [人]	25,551	23,828	22,661		
	人口増減率 [%]	-	93.3%	88.7%		
	人口密度 [人/ha]	23.69	22.09	21.01		
	人口構造 [人]	0～14歳	3,016	2,623	2,167	
		15～64歳	15,024	13,302	11,854	
		65歳以上	7,511	7,903	8,641	
	人口構造 [%]	0～14歳	11.8%	11.0%	9.6%	
		15～64歳	58.8%	55.8%	52.3%	
		65歳以上	29.4%	33.2%	38.1%	

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

(2) 土地利用

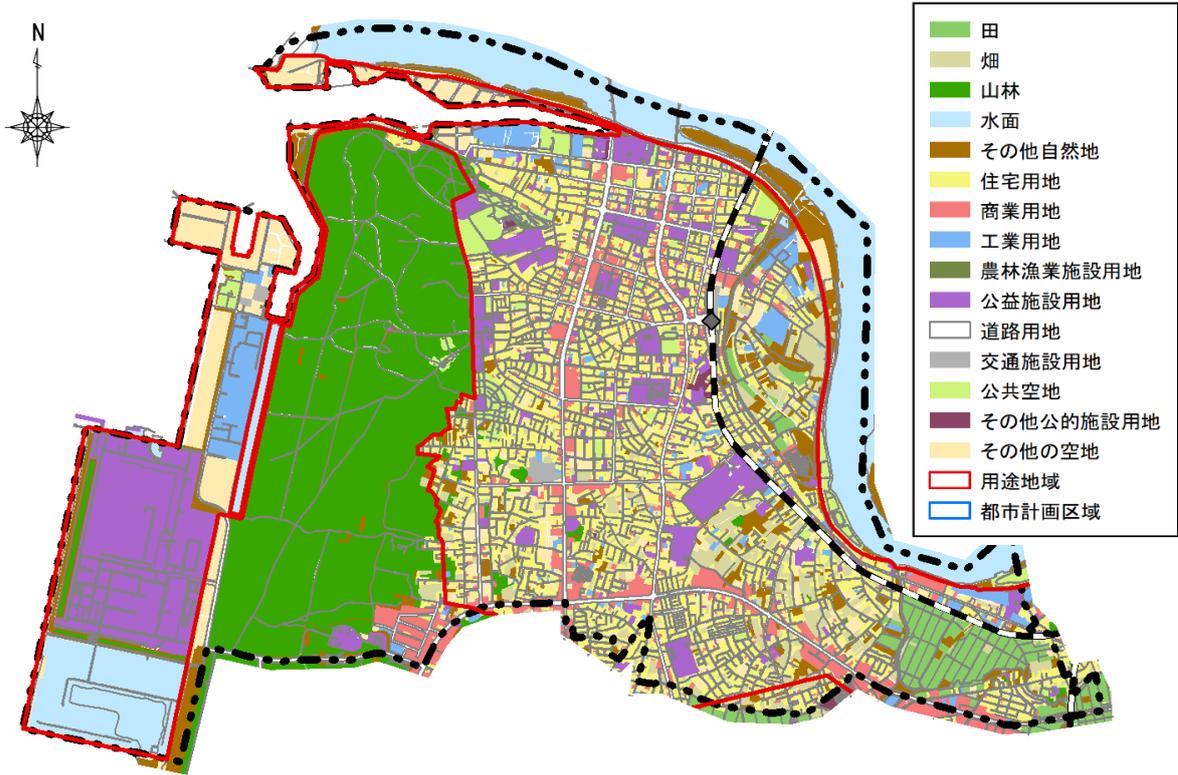
- ・ 用途地域内の土地利用は、住宅用地や公益施設用地の割合が高くなっているほか、他地域と比較して最も商業用地面積が大きく、商業機能の集積がみられます。
- ・ 中心市街地内に、医療・福祉・商業・子育て支援施設のほか、行政施設等の生活サービス施設が集積して立地しています。
- ・ 能代港周辺に、工業地の集積がみられます。
- ・ 空き家の件数が多いほか、用途地域全体に低未利用地が点在しています。

表 用途地域内の土地利用構成

		面積[ha]	構成比	備考
自然的 土地利用	農地	38.1	3.6%	
	畑	54.7	5.1%	
	山林	18.4	1.7%	
	水面	59.6	5.6%	
	その他自然地	68.6	6.4%	
	(小計)	239.4	22.5%	
都市的 土地利用	住宅用地	263.9	24.8%	
	商業用地	68.0	6.4%	
	工業用地	47.9	4.5%	
	農林漁業施設用地	0.5	0.0%	
	公益施設用地	162.7	15.3%	
	道路用地	138.8	13.0%	
	交通施設用地	7.5	0.7%	
	公共空地	30.6	2.9%	
	その他公的施設用地	2.1	0.2%	
	その他の空地	104.3	9.8%	
	(小計)	826.4	77.5%	
合計	1,065.8	100.0%		
開発許可	(H18-H26)	11.63	-	

出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

図 土地利用現況図



出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

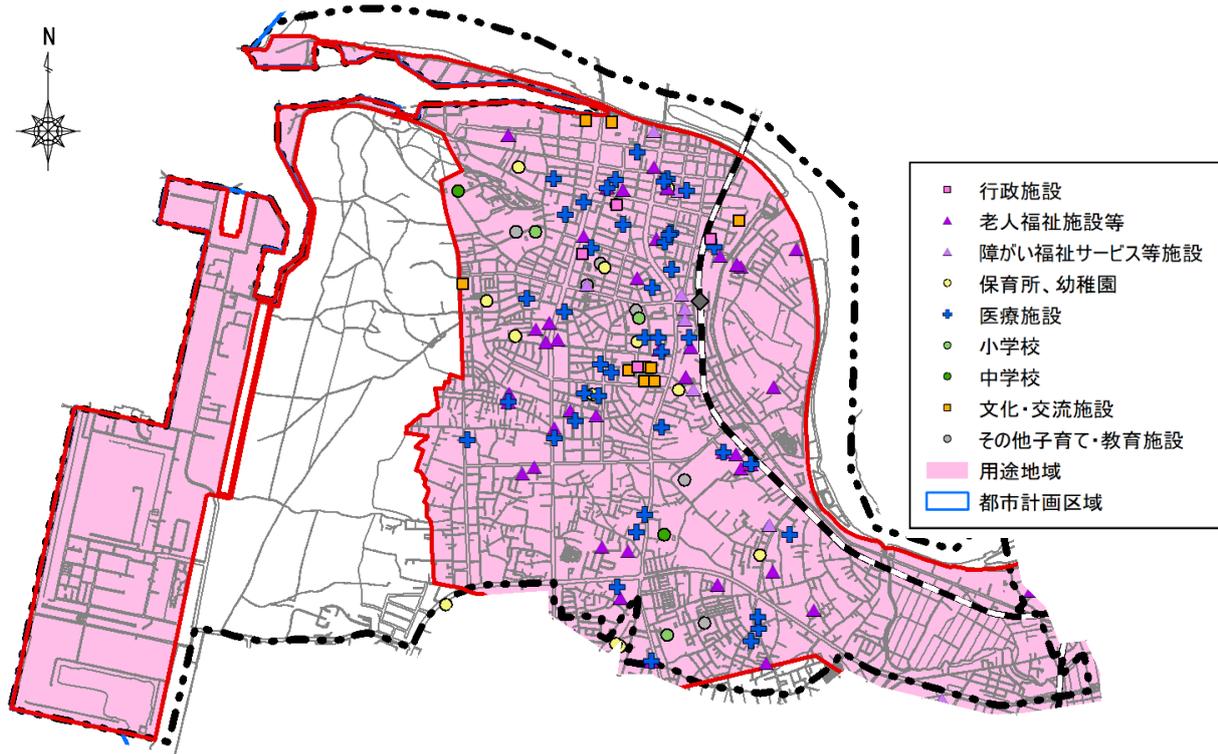
表 公共公益施設等の立地状況

行政施設	能代市本庁舎、山本地域振興局庁舎、能代市市民サービスセンター、能代市中央公民館
介護・福祉施設	老人福祉施設等（41箇所）、障がい福祉サービス等施設（12箇所）
子育て支援施設	めんchoco てらす、放課後児童クラブ（5箇所）、認可保育所（5箇所）、認定こども園（4箇所）、能代地域子育て支援センター「サンピノ」、能代松原ホーム
医療施設等	病院（3箇所）、診療所（39箇所）
教育・文化・交流施設	小学校（3箇所）、中学校（2箇所）、高等学校（2箇所）、能代図書館、博物館（2箇所）、能代市文化会館、集会施設（4箇所）、総合体育館

※2020年12月末時点

※2021年4月の能代科学技術高等学校の開校を反映（能代工業高等学校および能代西高等学校の統合）

図 公共公益施設等の立地状況



※2020年12月末時点

※2021年4月の能代科学技術高等学校の開校を反映（能代工業高等学校および能代西高等学校の統合）

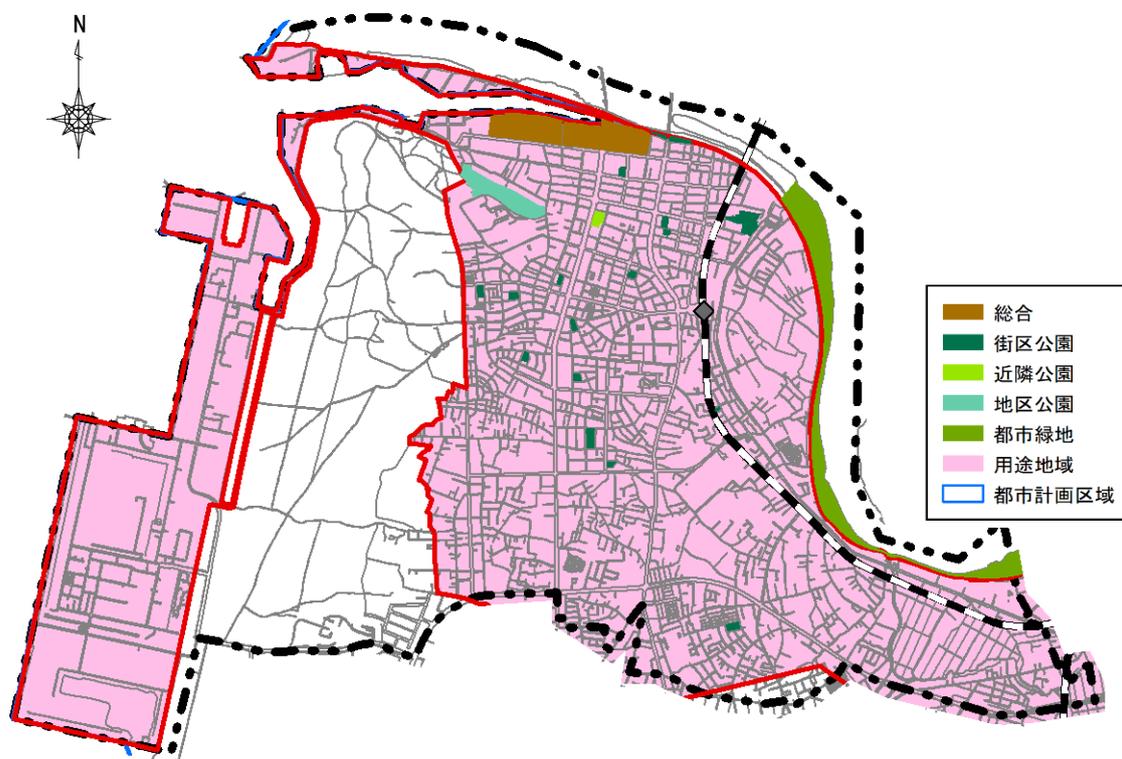
（3）都市施設および公共交通

- ・ 土地区画整理事業を中心とした都市基盤の整備が進んでいる一方で、長期に未着手となっている都市計画道路や土地区画整理事業も残されています。また、市内の都市公園の約70%が位置し、地域住民1人あたり公園面積が12.59㎡/人と市内で最も大きくなっています。
- ・ 公共交通は、JR五能線と路線バス、巡回バスがあり、能代駅を結節点として運行され、能代北部・北東部・東部・南部・二ツ井の各地域や他都市と連絡しています。

表 公園・緑地および土地区画整理事業の整備状況

公園・緑地	種別	箇所数	面積[ha]	備考
	街区公園	16	4.67	※2021年3月31日時点
	近隣公園	1	0.56	
	地区公園	1	4.90	
	総合公園	1	10.50	
	都市緑地	1	8.80	
	合計	20	29.43	
	1人当たり	12.59㎡/人		
土地区画整理事業	地区名	施行面積[ha]	換地公告年月	備考
	明治町	3.7	1954年10月	※2021年3月31日時点
	第一次火災復興	72.2	1960年12月	
	第二次火災復興	41.3	1959年9月	
	能代駅前	7.3	1969年6月	
	柳町新道	33.3	1986年7月	
	柳町	8.0	1995年1月	
	柳町中央	3.3	1993年10月	
	萩の台線	13.3	施行中	
	長崎	4.7	2004年10月	

図 公園・緑地の位置

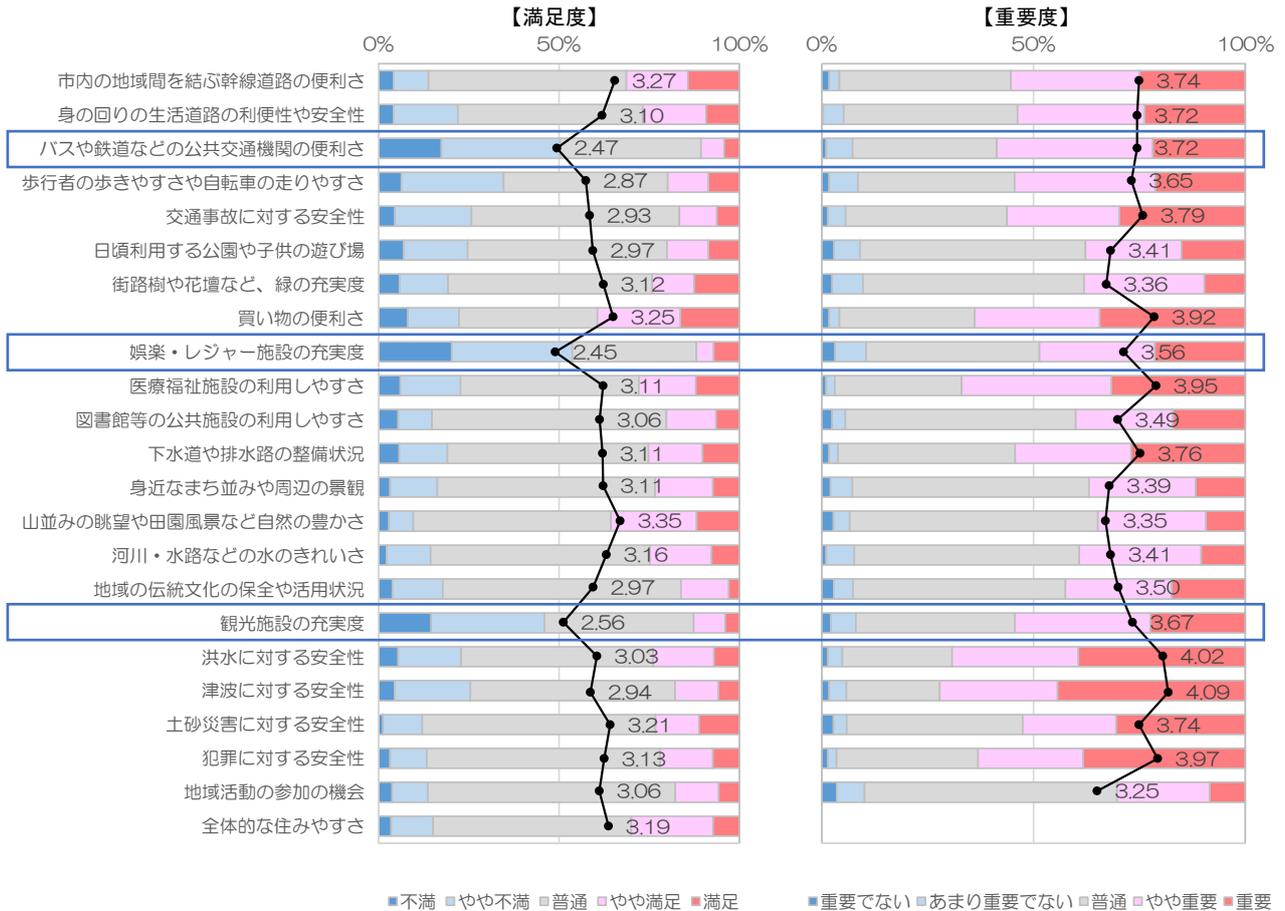


※2021年3月末時点

(4) 生活環境等

- ・ 中心市街地では、能代市民プラザや畠町新拠点等での文化・交流活動のほか、空き店舗の活用や歩道空間を活用した社会実験を行うなど、中心市街地の活性化に取り組んでいます。
- ・ 能代港や米代川の沿川を中心に、津波や洪水の災害リスクを抱えています。
- ・ 日常生活の満足度は、「娯楽・レジャー施設の充実度」が最も低く、次いで「公共交通機関の便利さ」「観光施設の充実度」となっています。

図 日常生活についての評価



出典：まちづくりに関する「市民アンケート調査」(2020年9月、能代市)

1-3. 主要課題

- 中心市街地は、本市の中心となる拠点として、中心性・拠点性の維持・向上に向けた、居住や生活サービス施設の集積を進めていくほか、活性化に向けた各種の取組を進めていくことが必要です。
- 長期に未着手となっている都市計画道路や土地区画整理事業があり、都市計画の見直しや廃止を検討するとともに、存続箇所の計画的な整備を進めていくことが必要です。
- 津波や洪水等の自然災害に対し、持続可能な中心拠点の形成を図るため、必要なハード整備とソフト対策を合わせた総合的な取組を進めていくことが必要です。

1-4. 地域づくりの方針

(1) 土地利用

- ・ 中心市街地は、市全体を対象とする様々な生活サービス施設が集積した拠点として、商業・業務機能の活性化のほか、医療・福祉・子育て支援・交流・文化等の多様な機能の維持・充実を図るため、都市機能や居住を誘導します。また、都市機能や居住の誘導にあたっては、空き家・空き店舗のリフォーム・リノベーションや空き地の交流広場等への活用など、既存ストックの活用を支援するほか、中心市街地再開発の支援の検討を進めます。
- ・ 能代地域中心拠点では、道路や公園等の公共空間の利活用、民地部分の広場化、沿道施設も含めた良好な景観の形成など、「居心地が良く歩きたくなる」空間づくりを進めます。また、各種プロジェクトの実践に向けた実証実験を支援します。
- ・ 能代北高等学校跡地は、中心市街地活性化等の観点からその活用を図るため、集客機能や交流機能等の配置、民間資金やノウハウの活用（PPP/PFI 等）も含めた複合施設等の検討を進めます。
- ・ 能代町地区や上柳地区等の中心市街地周辺の一般住宅地は、生活道路や上下水道など、必要な社会基盤の整備や機能維持を図り、良好な居住環境を保全します。
- ・ 用途地域内で、農地等の自然的土地利用が残存し、都市的土地利用として将来的な利活用の見込みがない地区においては、用途地域の適用除外を検討するなど、自然環境を保全します。
- ・ 国道 101 号や一般県道富根能代線沿道の沿道商業・業務地は、小規模店舗と住宅が混在した土地利用を維持します。
- ・ 国道 7 号沿道の沿道商業・業務地は、自動車交通のアクセス性を活かした利便性の高い沿道型の市街地としての利用を継続しつつ、中心商業・業務地への影響も考慮し、能代東 I.C.周辺の開発動向を踏まえた建物用途の制限のあり方などについて研究・検討を進めます。
- ・ 能代港は、海洋再生可能エネルギー発電設備の導入を促進するための拠点港湾（基地港湾）であることから、必要な港湾機能の整備のほか、周辺の工業地への洋上風力関連の企業立地を促進します。
- ・ 風の松原は、飛砂の防止やレクリエーション等の多様な機能を保全するため、地域住民、NPO、企業、各種団体等が実施するボランティアや地域活動等に対し、支援を行います。
- ・ 米代川は、親水、自然学習、交流・連携等の機能の維持・充実を促進します。

(2) 都市施設および公共交通

- ・ 都市計画決定された幹線街路は、計画的な整備を推進するほか、長期間にわたり事業着手がなされていない路線については、必要性等を再検証し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を決定したうえで、計画の見直しを行います。
- ・ 生活道路は、安全上緊急性が高いものや老朽化対策が必要なものを中心とし、地域住民等の理解を得ながら整備および維持・改善を推進します。
- ・ 能代駅周辺や高齢者、障がい者等が利用する施設が集まった地区を対象とし、バリアフリー化の方針を検討するとともに、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。

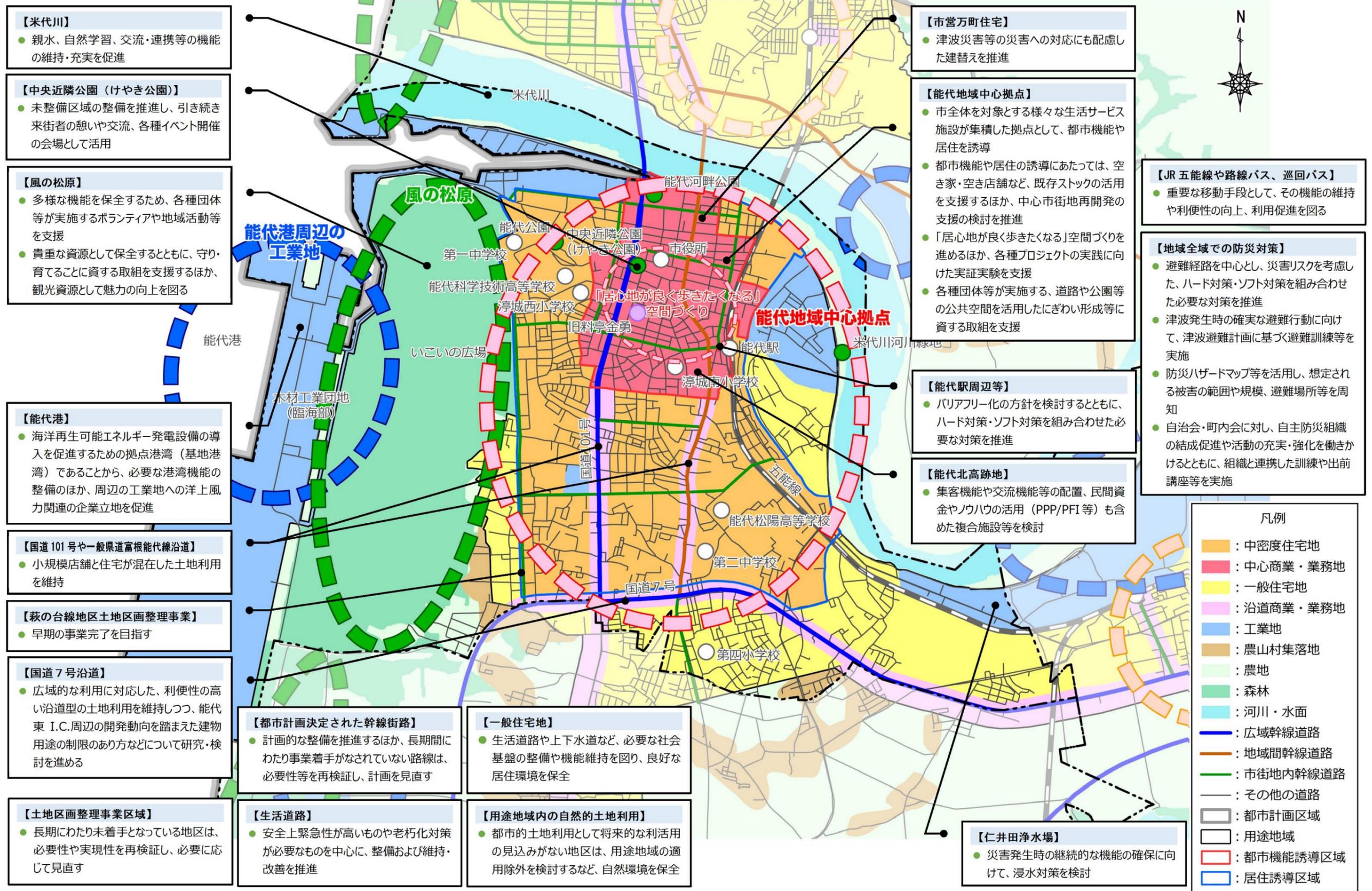
- ・ 中央近隣公園については、未整備区域の整備を推進し、引き続き来街者の憩いや交流、各種イベント開催の会場として活用します。
- ・ 萩の台線地区土地区画整理事業は、早期の事業完了を目指します。
- ・ 土地区画整理事業のうち、都市計画決定から 20 年以上の長期にわたり未着手となっている地区は、必要性や実現性を再検証し、「存続」「縮小」「廃止」の方向性を決定し、必要に応じて見直しを行います。
- ・ JR 五能線や路線バス、巡回バスは、市内各地域や他都市と連絡する重要な移動手段として、その機能の維持や利便性の向上、利用促進を図ります。

(3) 生活環境等

- ・ 能代地域の中心市街地内に位置する市営万町住宅は、耐用年限を超え老朽化が進行していることから、津波災害等の災害への対応にも配慮した建替えを推進します。
- ・ 風の松原は、貴重な資源として保全するとともに、自然観察会や美化・保全活動など、守り・育てることに資する取組を支援するほか、地域内・外から広く利用される観光資源として、魅力の向上を図ります。
- ・ 地域住民、NPO、企業、各種団体等が実施する、道路や公園等の公共空間を活用したにぎわい形成等に資する取組を支援します。
- ・ 災害発生時の継続的な機能の確保に向けて、仁井田浄水場の浸水対策を検討します。
- ・ 自治会・町内会、自主防災組織等が設定した避難経路を中心とし、津波災害や水害、土砂災害等のリスクを考慮した、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。
- ・ 津波発生時の確実な避難行動に向けて、津波避難計画に基づく避難訓練等を実施します。
- ・ 市民の安全で円滑な避難に向けて、防災ハザードマップ（津波、洪水、土砂災害等）等を活用し、想定される被害の範囲や規模、避難場所等の周知を図ります。
- ・ 自助・共助による自発的な防災活動の促進を図るため、自治会・町内会に対し、自主防災組織の結成促進や活動の充実・強化を働きかけるとともに、組織と連携した訓練や出前講座等を実施します。



図 地域づくりの方針図

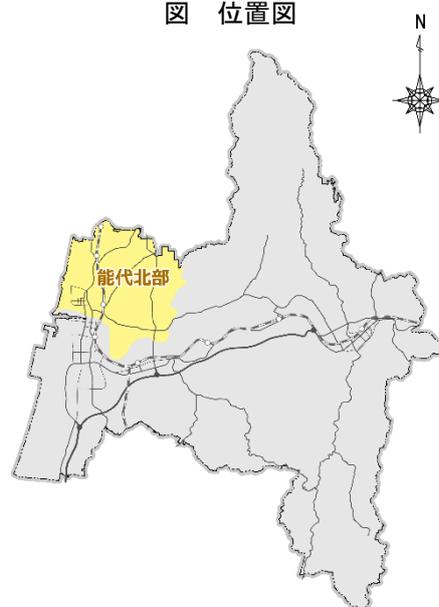


2. 能代北部地域

2-1. 地域の概況

- 本地域は、米代川河口の北部に位置する地域で、能代中央地域に隣接する地域の南側に、住宅地を中心とした市街地が形成されています。
- 河口海岸付近に、スポーツレクリエーション施設が集積しており、市内・外から多くの利用がみられます。
- 地域の東側から北側にかけて田畑等の農地が広がっています。また、地域の北側に竹生川が流れるほか、落合沼等の生物多様性に重要な池沼が多く分布しています。

図 位置図



2-2. 地域の現況

(1) 人口動態

- ・ 2015年（平成27年）の人口は約8,900人で、人口減少率は能代南部地域に次いで、2番目に低くなっています。また、用途地域内の人口は約6,500人で、人口減少率は、他地域と比較して最も低くなっています。
- ・ 2015年の高齢化率は34.7%です。また、用途地域内では32.4%となっており、能代南部地域に次いで、2番目に低くなっています。

表 人口動態

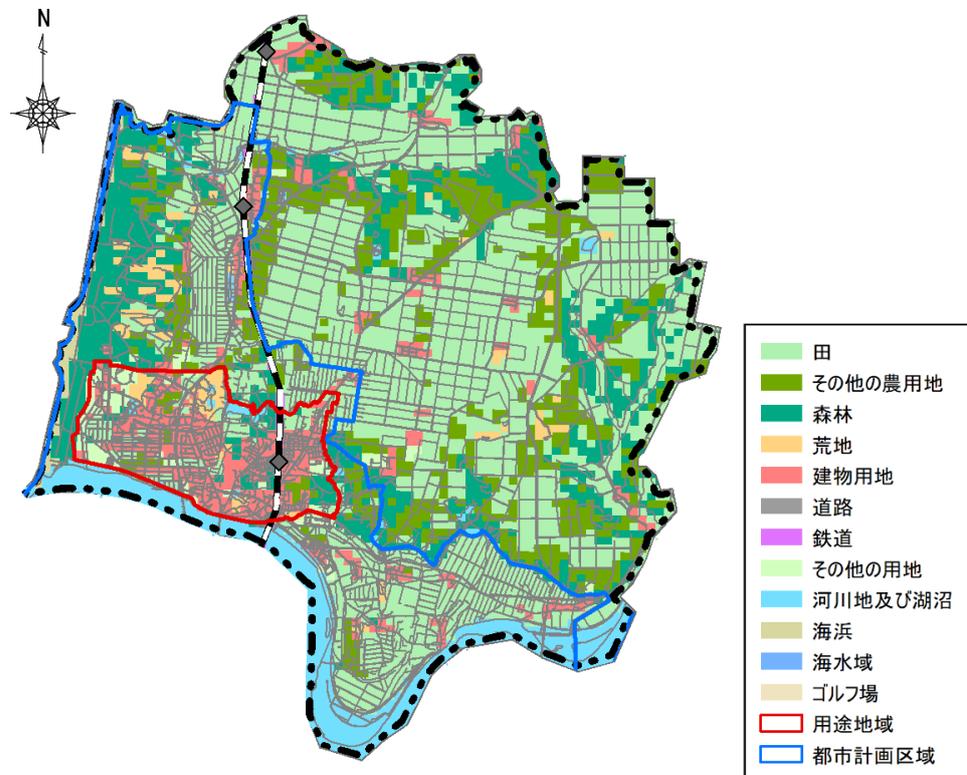
		H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	備考	
地域全体	面積 [ha]	4,527.58				
	人口 [人]	9,946	9,432	8,983		
	人口増減率 [%]	-	94.8%	90.3%		
	世帯数 [世帯]	3,530	3,530	3,526		
	平均世帯人員 [人/世帯]	2.8	2.7	2.5		
	人口構造 [人]	0～14歳	1,252	1,145	964	
		15～64歳	6,078	5,494	4,902	
		65歳以上	2,615	2,792	3,117	
	人口構造 [%]	0～14歳	12.6%	12.1%	10.7%	
		15～64歳	61.1%	58.2%	54.6%	
65歳以上		26.3%	29.6%	34.7%		
用途地域	面積 [ha]	438.62				
	人口 [人]	7,074	6,796	6,594		
	人口増減率 [%]	-	96.1%	93.2%		
	人口密度 [人/ha]	16.13	15.49	15.03		
	人口構造 [人]	0～14歳	976	904	791	
		15～64歳	4,346	3,967	3,665	
		65歳以上	1,751	1,925	2,138	
	人口構造 [%]	0～14歳	13.8%	13.3%	12.0%	
15～64歳		61.4%	58.4%	55.6%		
65歳以上		24.8%	28.3%	32.4%		

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

(2) 土地利用

- ・ 日本海に面した地域の西側を中心に都市計画区域が指定されており、用途地域外の大半は、農地等の自然的土地利用となっています。用途地域内は、住宅用地や公益施設用地の割合が高い一方で、農地の割合も高くなっています。
- ・ 落合や落合住宅団地の土地区画整理事業地内を中心に、医療・福祉・商業・子育て支援施設がまとまって立地しています。特に、落合地区土地区画整理事業地内に、能代山本地区の第一次から第二次までの医療を行う能代厚生医療センターが立地しています。
- ・ 用途地域の西側に、能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」や「山田久志サブマリスタジアム」等のスポーツ施設が集積して立地しています。
- ・ 米代川の沿川に、松原工業団地が整備されています。

図 土地利用の概況



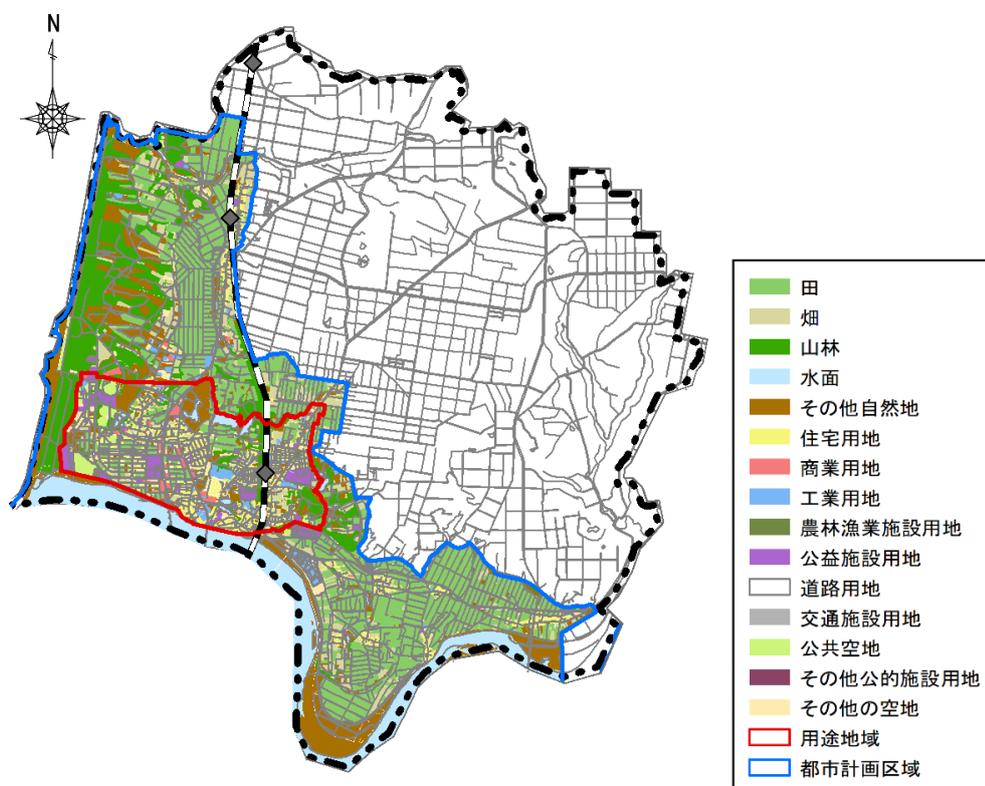
出典：2016年土地利用細分メッシュ（国土交通省）

表 用途地域内の土地利用構成

		面積[ha]	構成比	備考
自然的 土地利用	農地			
	田	42.7	9.9%	
	畑	28.8	6.6%	
	山林	42.3	9.8%	
	水面	11.4	2.6%	
	その他自然地	60.1	13.9%	
	(小計)	185.2	42.8%	
都市的 土地利用	住宅用地	95.7	22.1%	
	商業用地	15.9	3.7%	
	工業用地	14.7	3.4%	
	農林漁業施設用地	0.6	0.1%	
	公益施設用地	32.1	7.4%	
	道路用地	48.8	11.3%	
	交通施設用地	2.7	0.6%	
	公共空地	21.3	4.9%	
	その他公的施設用地	0.1	0.0%	
	その他の空地	15.6	3.6%	
		(小計)	247.5	57.2%
合計		432.7	100.0%	
開発許可	(H18-H26)	7.09	-	

出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

図 土地利用現況図



出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

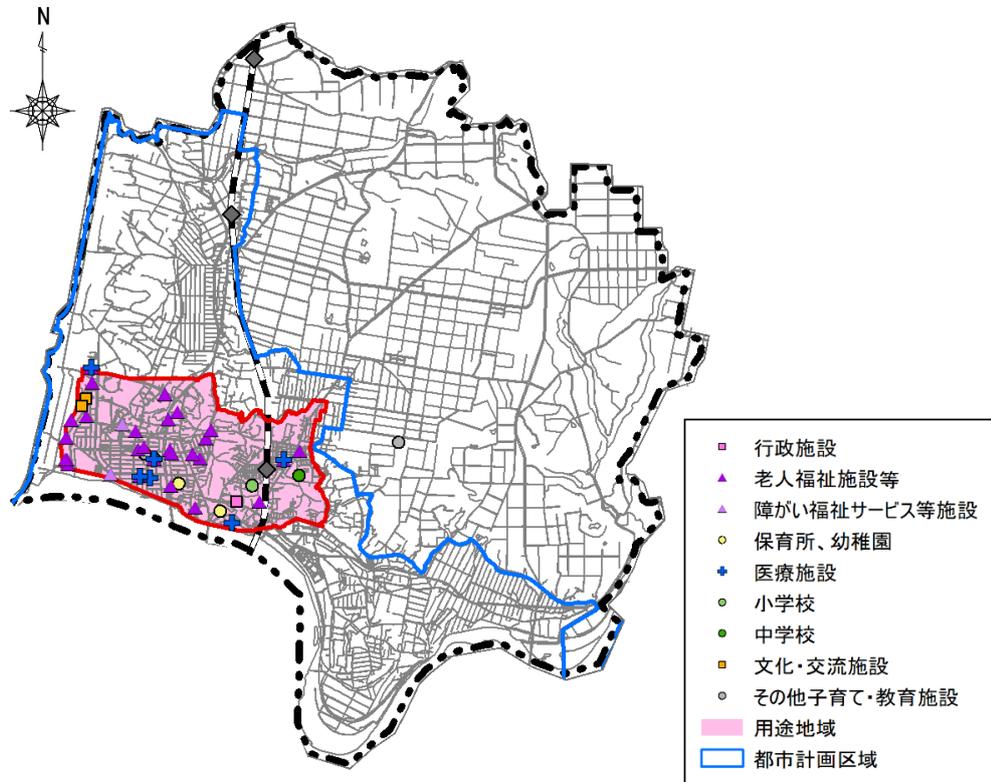
表 公共公益施設等の立地状況

行政施設	能代市向能代地域センター、能代市向能代公民館
介護・福祉施設	老人福祉施設等（28箇所）、障がい福祉サービス等施設（5箇所）
子育て支援施設	留守家庭児童会なかよし、認可保育所（2箇所）、能代厚生医療センター（助産施設）
医療施設等	能代厚生医療センター、診療所（6箇所）
教育・文化・交流施設	能代市立向能代小学校、能代市立東雲中学校、秋田県立能代支援学校、秋田しらかみ看護学院、体育館（2箇所）

※2020年12月末時点

※2021年4月の能代科学技術高等学校の開校を反映（能代工業高等学校および能代西高等学校の統合）

図 公共公益施設等の立地状況



※2020年12月末時点

※2021年4月の能代科学技術高等学校の開校を反映（能代工業高等学校および能代西高等学校の統合）

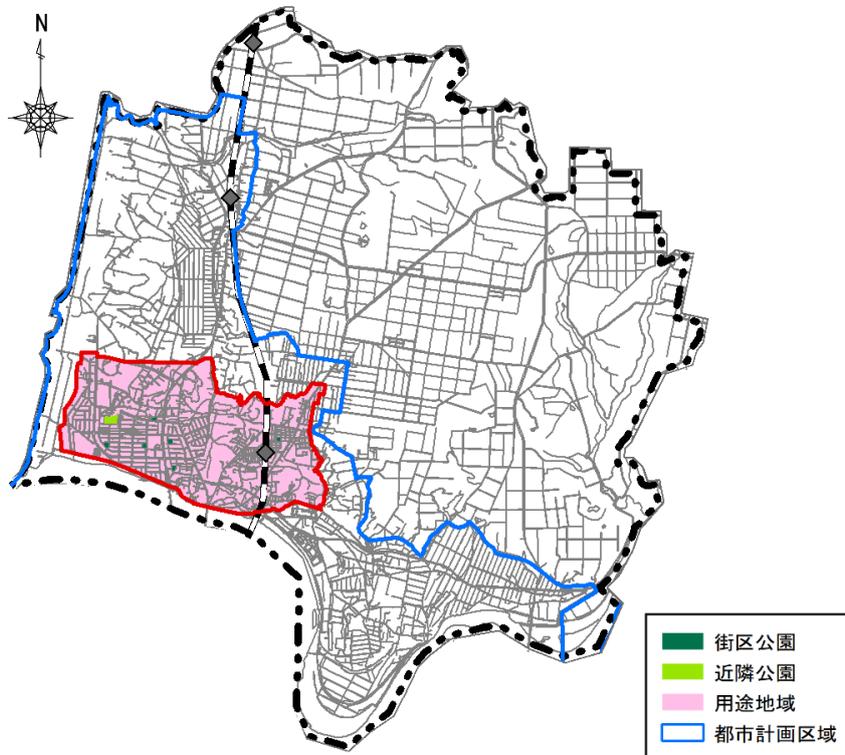
(3) 都市施設および公共交通

- ・ 落合地区土地区画整理事業地内には、宅地として利用されていない区画が残されています。また、長期に未着手となっている都市計画道路が残されています。
- ・ 公共交通は、JR 五能線と路線バス、巡回バス、デマンド型乗合タクシーがあります。用途地域内では、向能代駅周辺や能代厚生医療センターで、路線バス等とデマンド型乗合タクシーが接続されています。

表 公園・緑地および土地区画整理事業の整備状況

公園・緑地	種別	箇所数	面積[ha]	備考
	街区公園	6	1.30	
	近隣公園	1	1.50	
	地区公園	0	0.00	
	総合公園	0	0.00	
	都市緑地	0	0.00	
	合計	7	2.80	
	1人当たり	3.12m ² /人		
土地区画整理事業	地区名	施行面積[ha]	換地公告年月	備考
	落合	87.8	1993年6月	※2021年3月31日時点
	落合住宅団地	9.3	1981年9月	

図 公園・緑地の位置

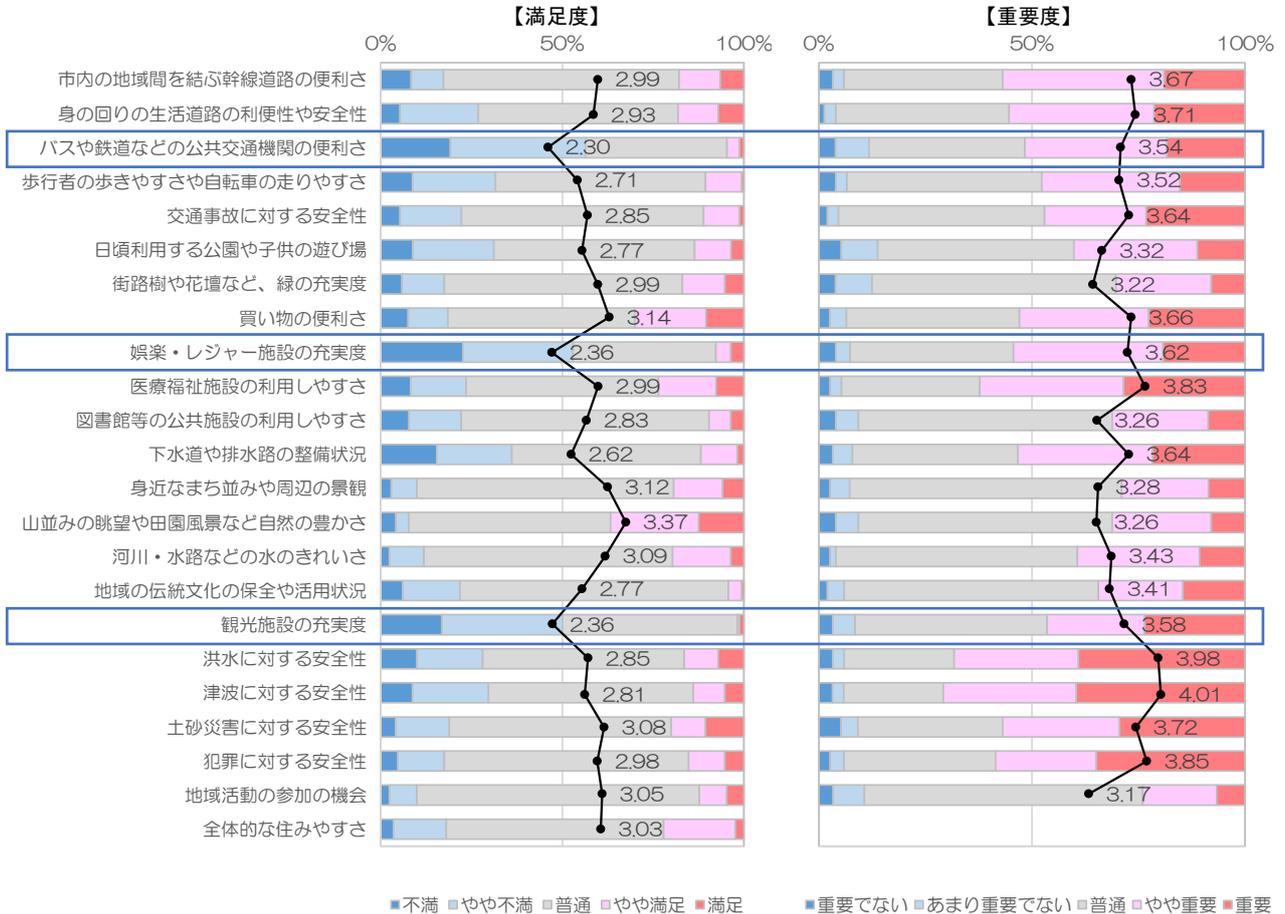


※2021年3月末時点

(4) 生活環境等

- ・ 能代港や米代川の沿川を中心に、津波や洪水の災害リスクを抱えています。
- ・ 日常生活の満足度は、「公共交通機関の便利さ」が最も低く、次いで「娯楽・レジャー施設の充実度」「観光施設の充実度」となっています。

図 日常生活についての評価



出典：まちづくりに関する「市民アンケート調査」(2020年9月、能代市)

2-3. 主要課題

- 向能代・落合地区を対象とし、土地区画整理事業等で整備されたインフラや既存の生活サービス施設を活用し、良好な居住環境を維持していくことが必要です。
- 能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」等のスポーツ施設の集積を活用し、スポーツを核とした地域振興・交流促進に関する取組を進めていくことが必要です。
- 市街地周辺に広がる農地は、農業生産活動のほか、環境や生物多様性の保全、水源のかん養等の多様な機能を維持・保全しながら、白神ブランドの1つである「白神みょうが」等を活用するなど、農業振興等を進めていくことが必要です。

2-4. 地域づくりの方針

(1) 土地利用

- ・ 落合地区土地区画整理事業地内は、能代厚生医療センターなど、各種の生活サービス施設と住宅が混在した利便性の高い生活環境を維持しつつ、宅地として利用されていない区画の利用促進を図ります。
- ・ 向能代地区や落合地区等の一般住宅地は、生活道路や上下水道など、必要な社会基盤の整備や機能維持を図り、良好な居住環境を保全します。
- ・ 用途地域内で、農地等の自然的土地利用が残存し、都市的土地利用として将来的な利活用の見込みがない地区においては、用途地域の適用除外を検討するなど、自然環境を保全します。
- ・ 工業地のうち、工場の撤退により住宅地など他用途への転用が見込まれる地区または既に住宅地など他用途の施設が立地している地区は、住居系用途地域への見直しなど、必要に応じて対応を検討します。
- ・ 松原工業団地は、工業振興の中心地として、周辺環境との調和に配慮しつつ、操業環境を維持します。
- ・ 農山村集落地は、周辺の自然環境や営農環境を保全しつつ、生活環境の維持を図ります。また、首都圏等からの移住者の受け入れを促進するとともに、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- ・ 農地は、農業水利施設の有効活用や長寿命化を進めつつ、生産基盤の強化を図るなど、営農環境を維持します。
- ・ 米代川は、親水、自然学習、交流・連携等の機能の維持・充実を促進します。

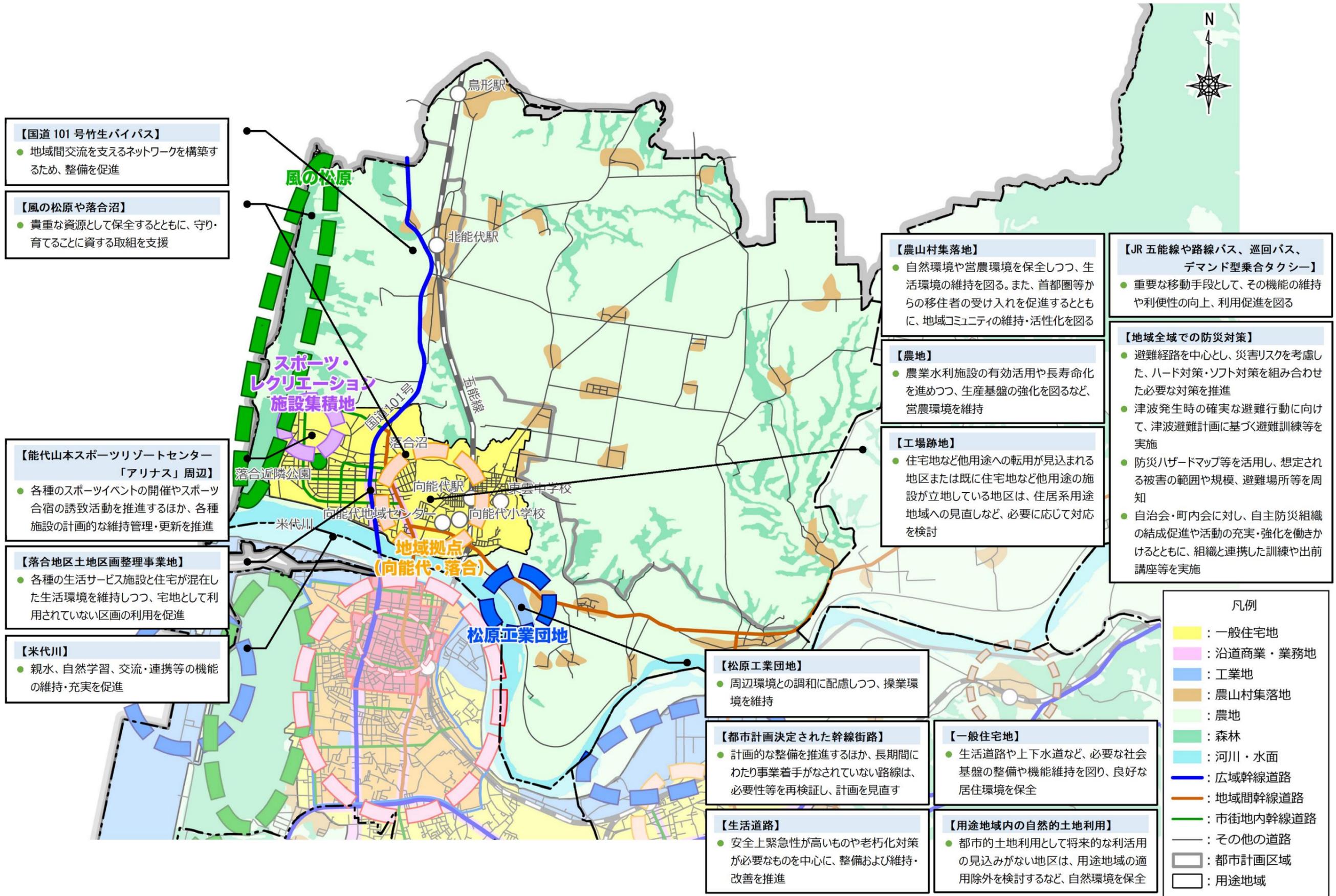
(2) 都市施設および公共交通

- ・ 地域間交流を支えるネットワークを構築するため、国道 101 号竹生バイパスの整備を促進します。
- ・ 都市計画決定された幹線街路は、計画的な整備を推進するほか、長期間にわたり事業着手がなされていない路線については、必要性等を再検証し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を決定したうえで、計画の見直しを行います。
- ・ 生活道路は、安全上緊急性が高いものや老朽化対策が必要なものを中心とし、地域住民等の理解を得ながら整備および維持・改善を推進します。
- ・ JR 五能線や路線バス、巡回バス、デマンド型乗合タクシーは、隣接地域や他都市と連絡する重要な移動手段として、その機能の維持や利便性の向上、利用促進を図ります。

(3) 生活環境等

- ・ 風の松原や落合沼は、貴重な資源として保全するとともに、自然観察会や美化・保全活動など、守り・育てることに資する取組を支援します。
- ・ 能代山本スポーツリゾートセンター「アリナス」周辺のスポーツ・レクリエーション施設集積地では、その特性を活用し、各種のスポーツイベントの開催やスポーツ合宿の誘致活動を推進するほか、各種施設の計画的な維持管理・更新を推進します。
- ・ 自治会・町内会、自主防災組織等が設定した避難経路を中心とし、津波災害や水害、土砂災害等のリスクを考慮した、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。
- ・ 津波発生時の確実な避難行動に向けて、津波避難計画に基づく避難訓練等を実施します。
- ・ 市民の安全で円滑な避難に向けて、防災ハザードマップ（津波、洪水、土砂災害等）等を活用し、想定される被害の範囲や規模、避難場所等の周知を図ります。
- ・ 自助・共助による自発的な防災活動の促進を図るため、自治会・町内会に対し、自主防災組織の結成促進や活動の充実・強化を働きかけるとともに、組織と連携した訓練や出前講座等を実施します。

図 地域づくりの方針図



3. 能代北東部地域

3-1. 地域の概況

- 本地域は、市の北東部に位置する地域で、県道等の主要な道路の沿道に、集落が分布しています。
- 常盤川、久喜沢川、天内川が流れているほか、稲作を中心とした農地と世界自然遺産白神山地へと連なる森林が広がっています。台地部には縄文時代から人が暮らしていたと考えられ、多数の遺跡が分布しています。
- 山間部には市民の憩いの広場として、毘沙門憩の森が整備されています。



3-2. 地域の現況

(1) 人口動態

- ・ 2015年（平成27年）の人口は約1,600人で、他地域と比較して最も人口が少なく、また、人口減少率が最も高くなっています。
- ・ 2015年の高齢化率は42.0%で、二ツ井地域に次いで、2番目に高くなっています。

表 人口動態

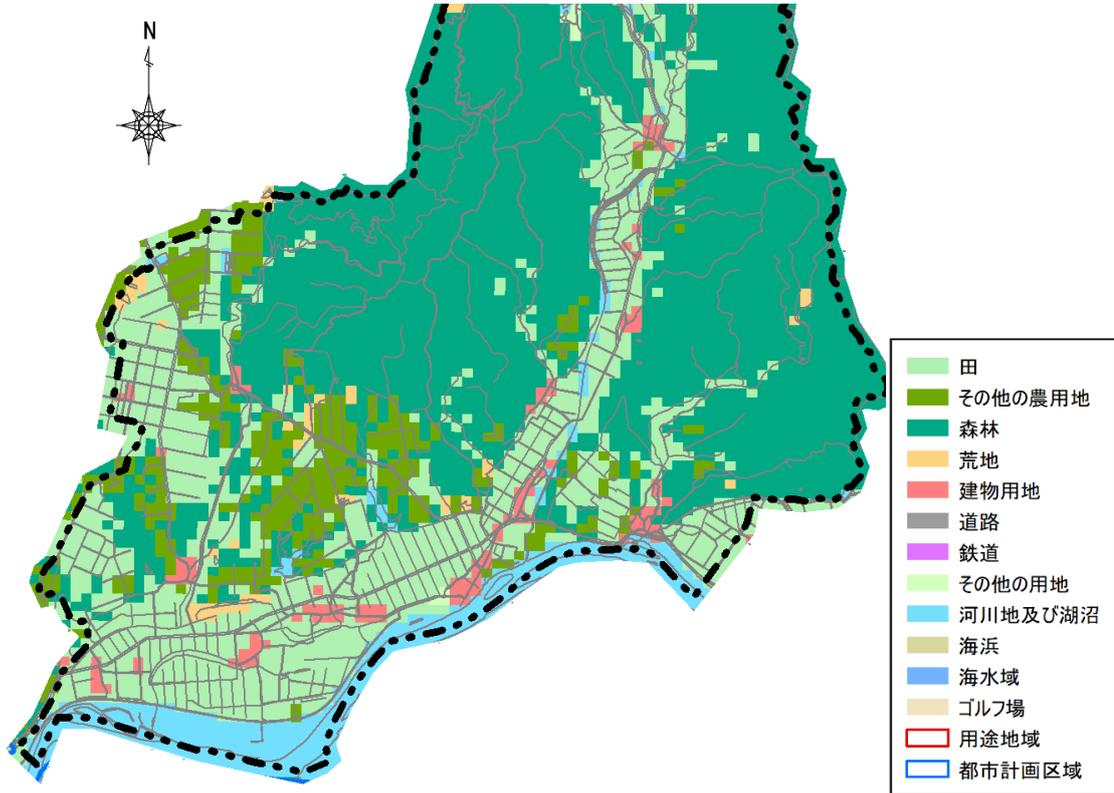
		H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	備考	
地域全体	面積 [ha]	6,533.26				
	人口 [人]	2,125	1,903	1,652		
	人口増減率 [%]	-	89.6%	77.7%		
	世帯数 [世帯]	615	602	563		
	平均世帯人員 [人/世帯]	3.5	3.2	2.9		
	人口構造 [人]	0～14歳	215	155	110	
		15～64歳	1,187	1,035	848	
		65歳以上	722	714	694	
	人口構造 [%]	0～14歳	10.1%	8.1%	6.6%	
		15～64歳	55.9%	54.4%	51.3%	
65歳以上		34.0%	37.5%	42.0%		
用途地域	面積 [ha]	0.00				
	人口 [人]	0	0	0		
	人口増減率 [%]	-	0.0%	0.0%		
	人口密度 [人/ha]	0.00	0.00	0.00		
	人口構造 [人]	0～14歳	0	0	0	
		15～64歳	0	0	0	
		65歳以上	0	0	0	
	人口構造 [%]	0～14歳	0.0%	0.0%	0.0%	
		15～64歳	0.0%	0.0%	0.0%	
		65歳以上	0.0%	0.0%	0.0%	

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

(2) 土地利用

- ・ 地域の全域が都市計画区域外となっており、地域の大半が森林や農地等の自然的土地利用となっています。
- ・ 地域内の主要な集落である常盤地区に、常盤地域センターや常盤郵便局が立地しているほか、轟地区に保育園や高齢者福祉施設が立地していますが、買い物は他地域に依存している状況です。

図 土地利用の概況



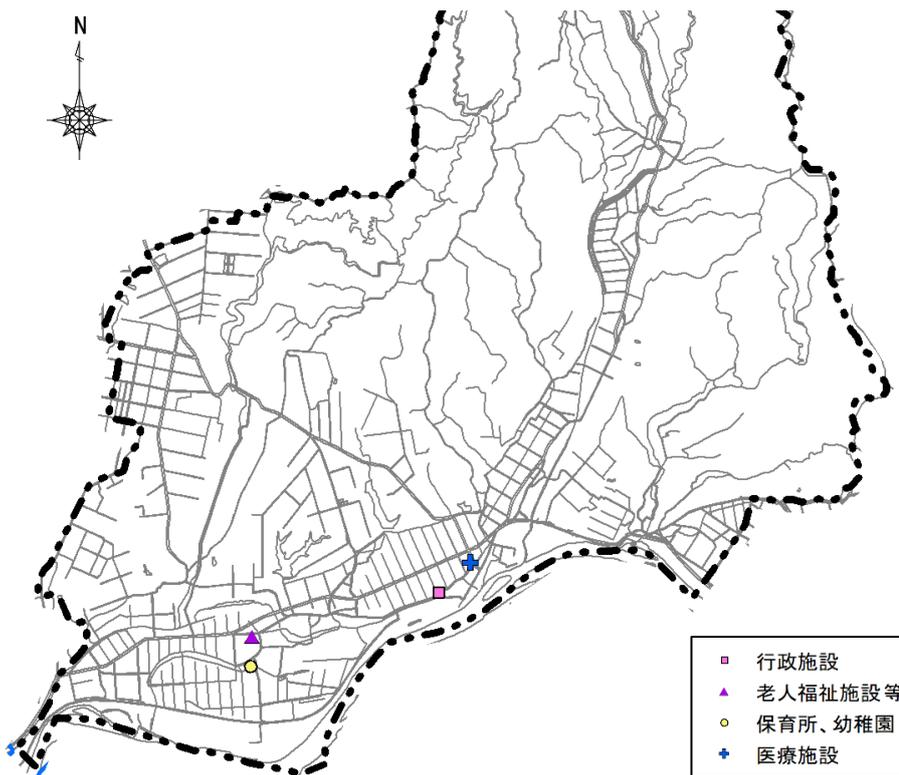
出典：2016年土地利用細分メッシュ（国土交通省）

表 公共公益施設等の立地状況

行政施設	能代市常盤地域センター、能代市常盤公民館
介護・福祉施設	グループホームさくら荘
子育て支援施設	轟保育園
医療施設等	常盤診療所
教育・文化・交流施設	-

※2020年12月末時点

図 公共公益施設等の立地状況



※2020年12月末時点

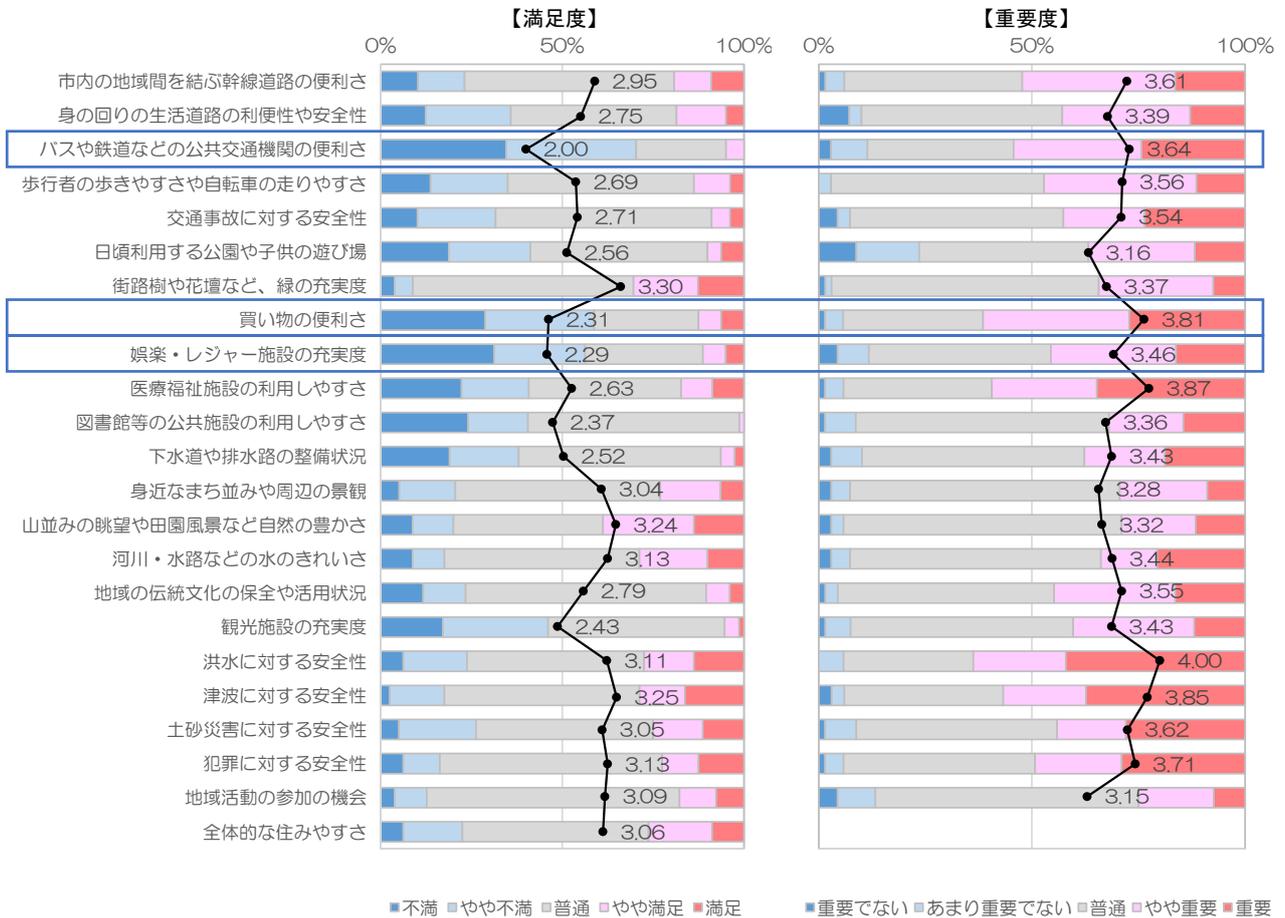
(3) 都市施設および公共交通

- ・ 地域内を東西に主要地方道能代二ツ井線が通り、他地域と連絡しているほか、地域内の主要な道路として一般県道山谷富根停車場線が整備されています。
- ・ 公共交通は、路線バスが運行されており、隣接の能代北部地域や能代中央地域と連絡しています。

(4) 生活環境等

- ・ 本地域では、市民参画のまちづくりを進めていくため、まちづくり協議会が組織されています。
- ・ 米代川の沿川や山間部の集落は、洪水や土砂災害のリスクを抱えています。
- ・ 日常生活の満足度は、「公共交通機関の便利さ」が最も低く、次いで「娯楽・レジャー施設の充実度」「買い物の便利さ」となっています。

図 日常生活についての評価



出典：まちづくりに関する「市民アンケート調査」(2020年9月、能代市)

3-3. 主要課題

- 地域全体で、地域住民が主体となるまちづくり協議会を中心に、周辺農地や森林を活用した地域振興を進めていくことが必要です。
- 自動車を運転することができない人の重要な移動手段である公共交通を、地域住民等との協働のもと維持していくことが必要です。
- 地域に広がる農地や森林は、農業生産や林業生産のほか、環境や生物多様性の保全、水源のかん養等の多様な機能を維持・保全しながら、園芸メガ団地で生産する「白神ねぎ」等を活用するなど、農林業の振興等を進めていくことが必要です。

3-4. 地域づくりの方針

(1) 土地利用

- ・ 主要な集落である常盤地区では、周辺の小規模集落を含めた生活圏の中心地として、日常生活を支える生活サービス施設や道路等の社会基盤など、地域の実情に合わせた必要な機能を維持・確保するとともに、周辺農地や森林の活用等により、地域住民等との協働による魅力ある地域づくりを促進します。
- ・ 農山村集落地は、周辺の自然環境や営農環境を保全しつつ、生活環境の維持を図ります。また、首都圏等からの移住者の受け入れを促進するとともに、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- ・ 農地は、農業水利施設の有効活用や長寿命化を進めつつ、生産基盤の強化を図るなど、営農環境を維持します。
- ・ 世界自然遺産白神山地へと連なる森林は、林業生産の基盤として、また、保水や治山、レクリエーション等の多様な機能を保全するため、地域住民、NPO、企業、各種団体等が実施するボランティアや地域活動等に対し、支援を行います。

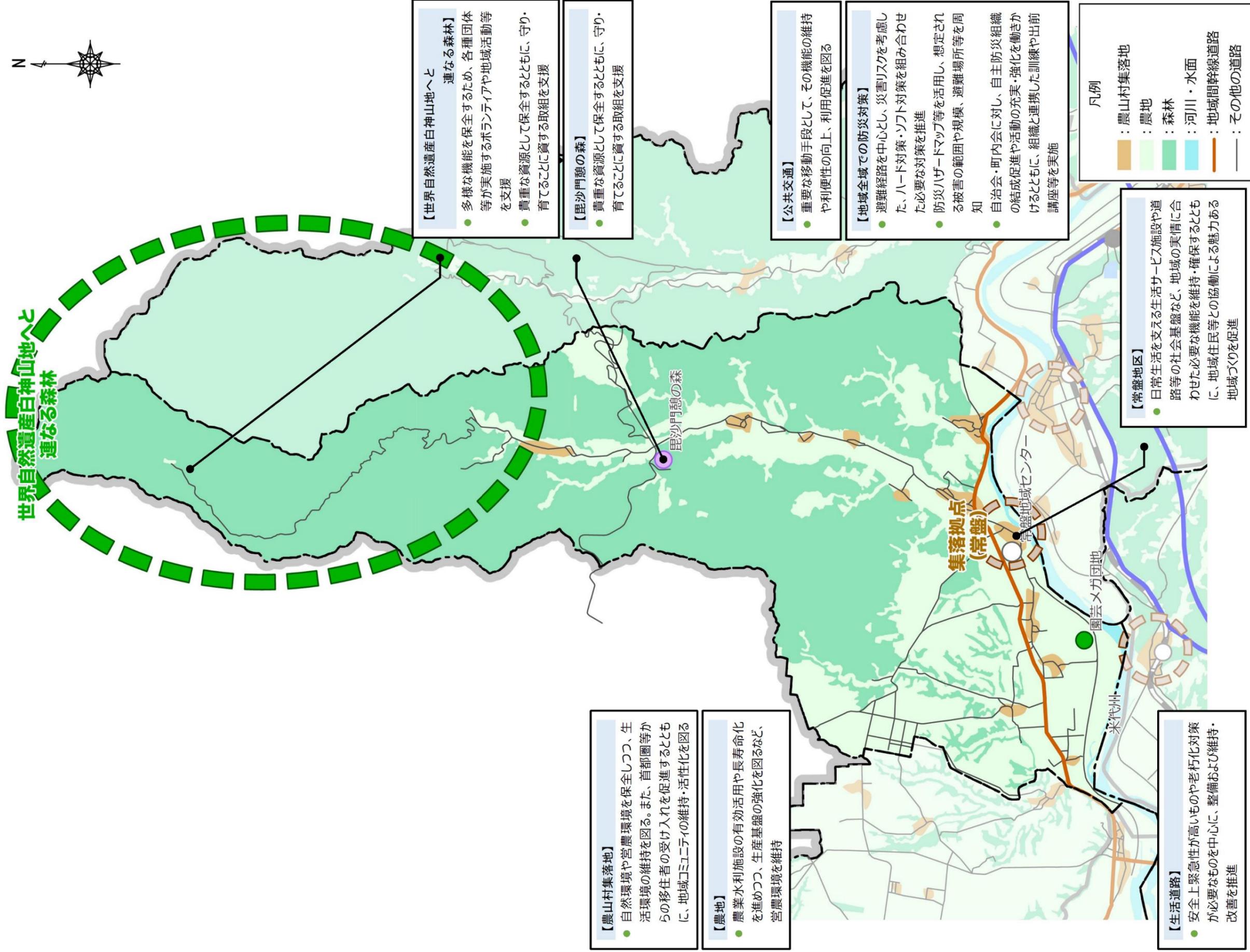
(2) 都市施設および公共交通

- ・ 生活道路は、安全上緊急性が高いものや老朽化対策が必要なものを中心とし、地域住民等の理解を得ながら整備および維持・改善を推進します。
- ・ 能代北部地域や能代中央地域と連絡する重要な移動手段を担う公共交通は、その機能の維持や利便性の向上、利用促進を図ります。

(3) 生活環境等

- ・ 世界自然遺産白神山地へと連なる森林や毘沙門憩の森は、貴重な資源として保全するとともに、グリーンツーリズムや自然観察会、美化・保全活動など、守り・育てることに資する取組を支援します。
- ・ 自治会・町内会、自主防災組織等が設定した避難経路を中心とし、水害や土砂災害等のリスクを考慮した、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。
- ・ 市民の安全で円滑な避難に向けて、防災ハザードマップ（洪水、土砂災害等）等を活用し、想定される被害の範囲や規模、避難場所等の周知を図ります。
- ・ 自助・共助による自発的な防災活動の促進を図るため、自治会・町内会に対し、自主防災組織の結成促進や活動の充実・強化を働きかけるとともに、組織と連携した訓練や出前講座等を実施します。

図 地域づくりの方針図



4. 能代東部地域

図 位置図

4-1. 地域の概況

- 本地域は、能代中央地域に隣接する地域の西側に、住宅地を中心とした市街地が形成され、国道7号の沿道には、沿道型の商業施設が立地しています。また、米代川に面して能代工業団地が整備され、製造業を中心とした工場が集積しています。
- 地域の大半は丘陵で、稲作を中心とした農地の背後に森林が広がっています。
- 檜山地区は、城跡など多数の史跡があり、郷土の歴史を感じられる地区となっています。



4-2. 地域の現況

(1) 人口動態

- ・ 2015年（平成27年）の人口は約5,000人です。また、用途地域内の人口は約3,000人となっており、人口減少率は二ツ井地域に次いで、2番目に高くなっています。
- ・ 2015年の高齢化率は37.3%で、用途地域内では33.9%となっています。

表 人口動態

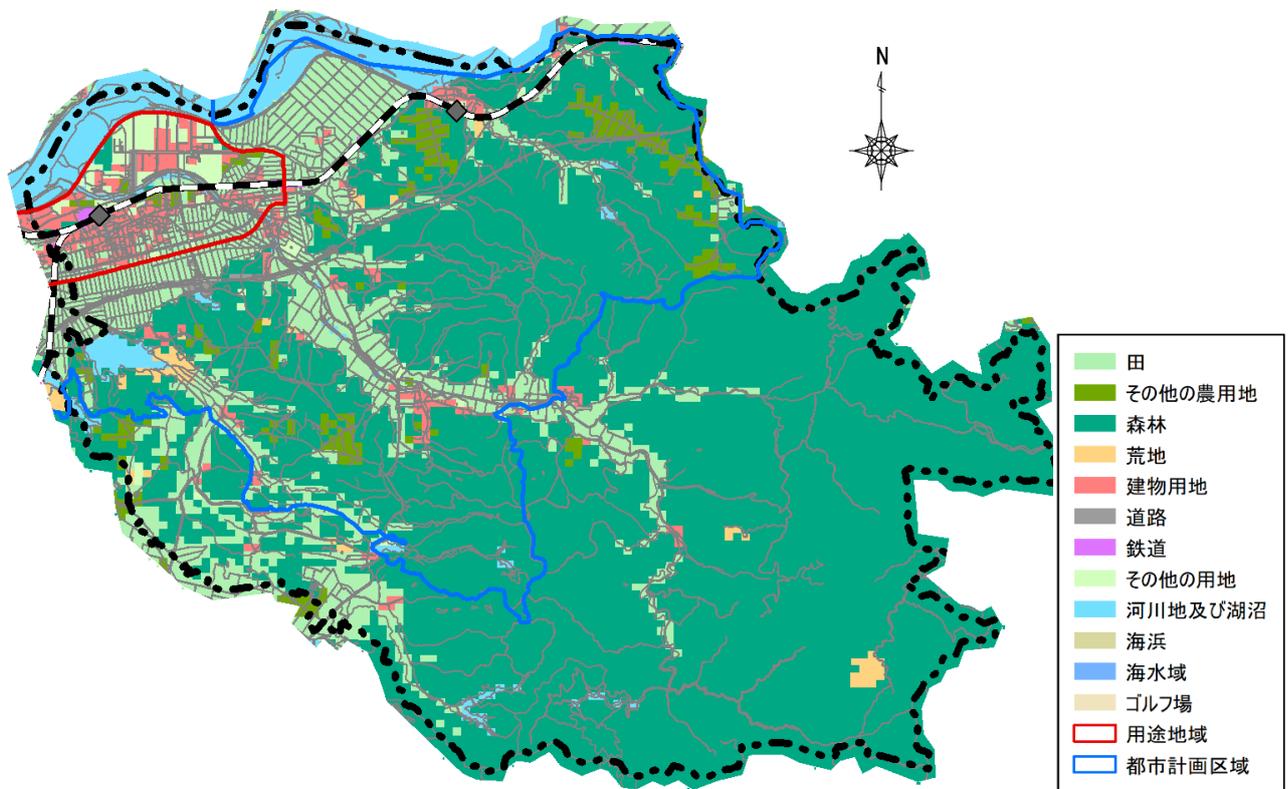
		H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	備考	
地域全体	面積 [ha]	7,980.83				
	人口 [人]	5,999	5,826	5,042		
	人口増減率 [%]	-	97.1%	84.0%		
	世帯数 [世帯]	1,973	1,997	1,876		
	平均世帯人員 [人/世帯]	3.0	2.9	2.7		
	人口構造 [人]	0~14歳	740	667	453	
		15~64歳	3,534	3,316	2,707	
		65歳以上	1,725	1,843	1,882	
	人口構造 [%]	0~14歳	12.3%	11.5%	9.0%	
		15~64歳	58.9%	56.9%	53.7%	
65歳以上		28.8%	31.6%	37.3%		
用途地域	面積 [ha]	421.79				
	人口 [人]	3,446	3,361	3,001		
	人口増減率 [%]	-	97.5%	87.1%		
	人口密度 [人/ha]	8.17	7.97	7.12		
	人口構造 [人]	0~14歳	461	444	326	
		15~64歳	2,088	1,988	1,659	
		65歳以上	896	929	1,016	
	人口構造 [%]	0~14歳	13.4%	13.2%	10.9%	
		15~64歳	60.6%	59.2%	55.3%	
65歳以上		26.0%	27.6%	33.9%		

出典：各年国勢調査100mメッシュ

(2) 土地利用

- ・ 地域の北西側に都市計画区域が指定されており、用途地域外の大半は、森林や農地等の自然的土地利用となっています。用途地域内は、住宅用地のほか、能代工業団地等の工業用地の割合が高い一方で、農地の割合も高くなっています。
- ・ 東能代駅周辺に、医療・福祉・子育て支援施設がまとまって立地しています。また、能代東 I.C.周辺に大規模小売店舗が立地しています。
- ・ 米代川の沿川に、能代工業団地が整備されています。
- ・ 地域内の主要な集落である檜山や鶴形地区に、地域センターや郵便局等が立地していますが、買い物は他地域に依存している状況です。

図 土地利用の概況



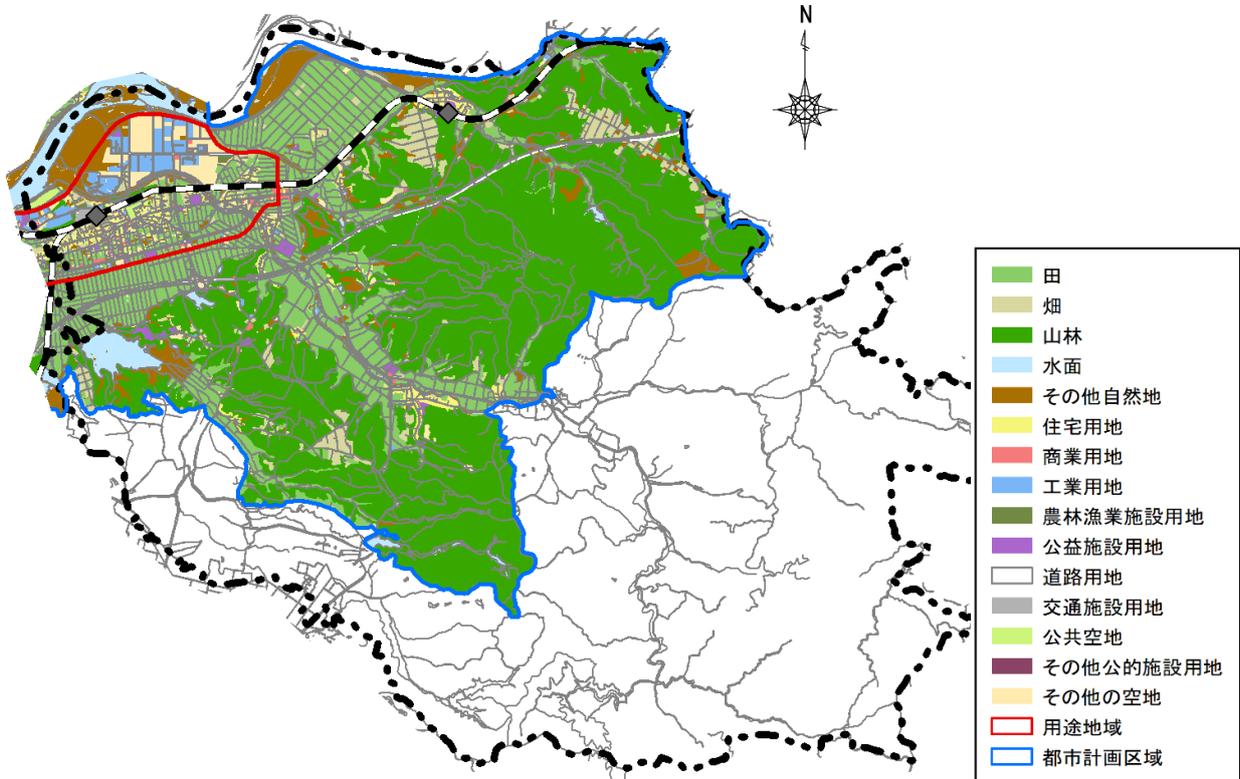
出典：2016年土地利用細分メッシュ（国土交通省）

表 用途地域内の土地利用構成

		面積[ha]	構成比	備考
自然的 土地利用	農地	87.6	21.1%	
	田	23.3	5.6%	
	畑	8.9	2.1%	
	山林	4.6	1.1%	
	水面	45.4	10.9%	
	その他自然地	169.8	40.8%	
都市的 土地利用	(小計)			
	住宅用地	57.1	13.7%	
	商業用地	10.0	2.4%	
	工業用地	57.3	13.8%	
	農林漁業施設用地	3.1	0.7%	
	公益施設用地	7.5	1.8%	
	道路用地	36.1	8.7%	
	交通施設用地	10.0	2.4%	
	公共空地	3.3	0.8%	
	その他公的施設用地	0.1	0.0%	
	その他の空地	61.8	14.9%	
	(小計)	246.3	59.2%	
合計		416.1	100.0%	
開発許可	(H18-H26)	4.06	-	

出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

図 土地利用現況図



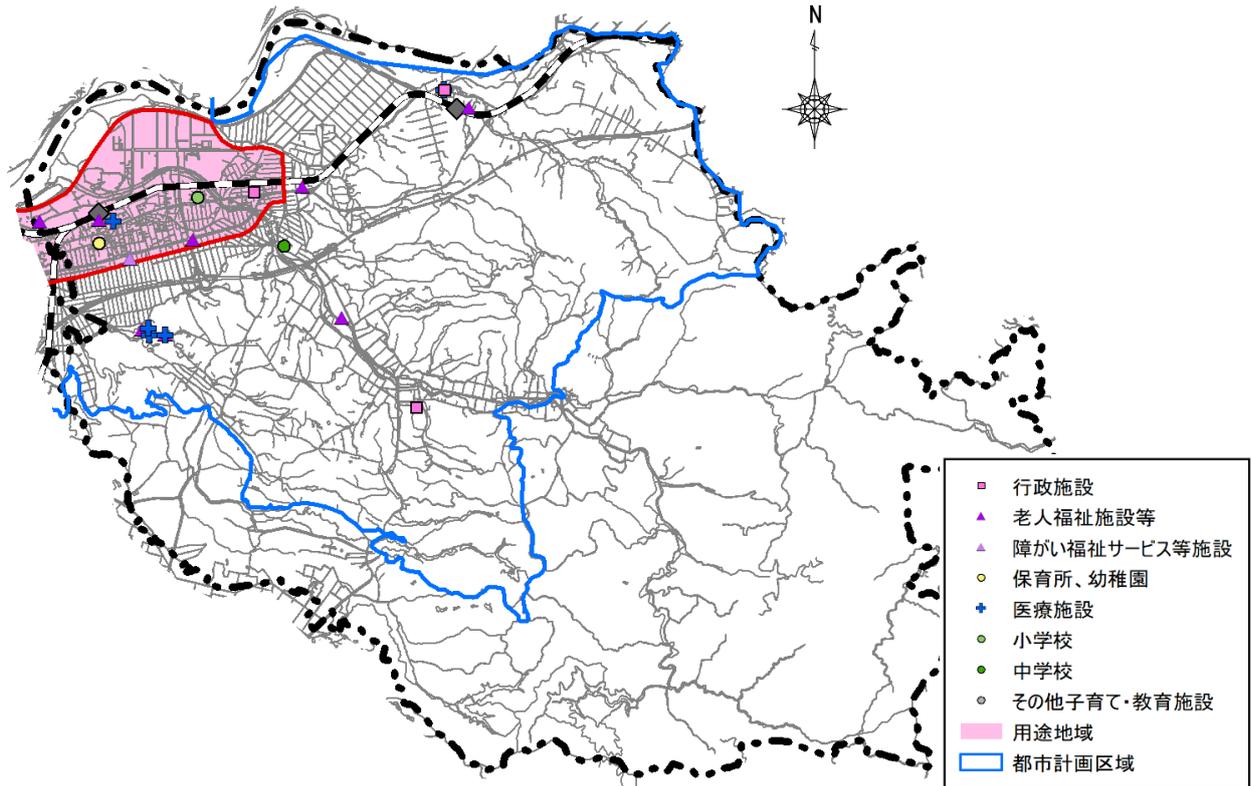
出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

表 公共公益施設等の立地状況

行政施設	地域センター（3箇所）、公民館（4箇所）
介護・福祉施設	老人福祉施設等（8箇所）、障がい福祉サービス等施設（2箇所）
子育て支援施設	留守家庭児童会はくちょうクラブ、東能代幼稚園・保育園
医療施設等	能代山本医師会病院、診療所（4箇所）
教育・文化・交流施設	能代市立第五小学校、能代市立能代東中学校

※2020年12月末時点

図 公共公益施設等の立地状況



※2020年12月末時点

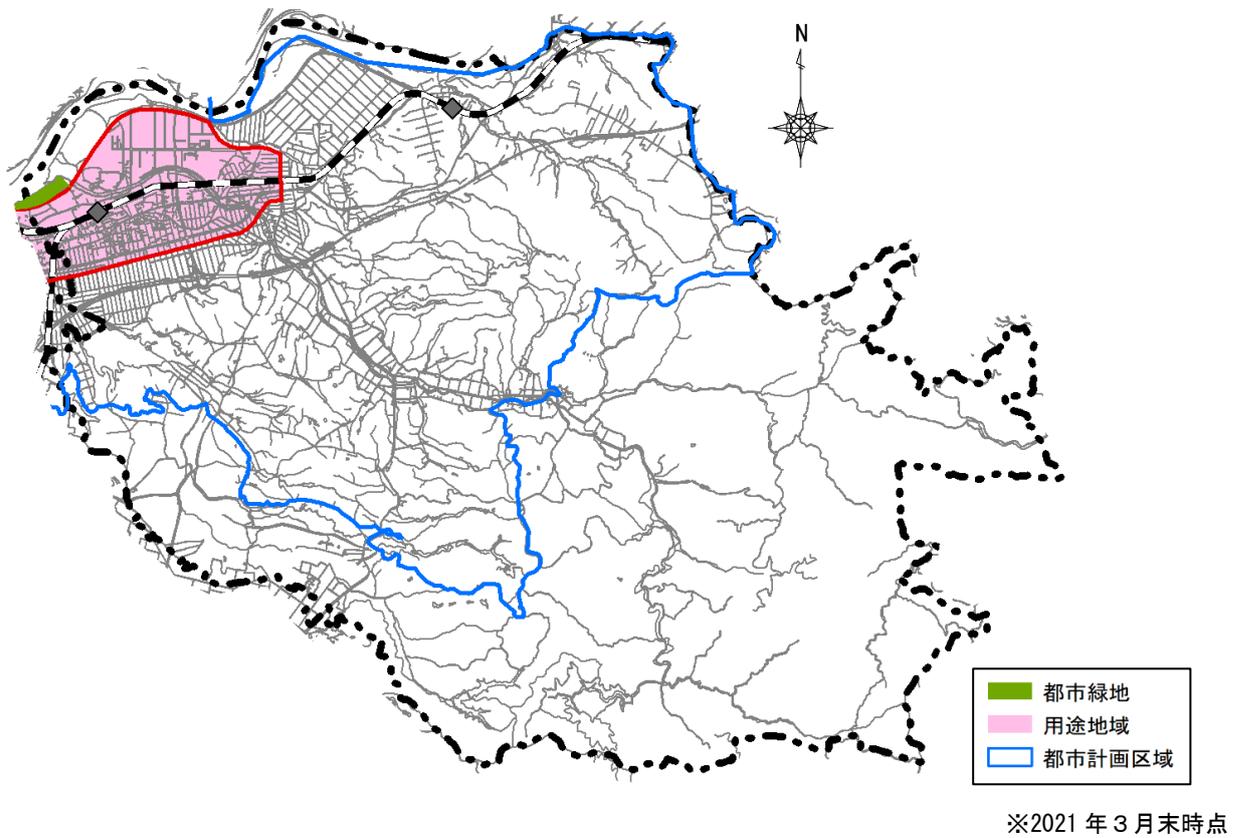
(3) 都市施設および公共交通

- ・ 長期に未着手となっている都市計画道路が残されています。
- ・ 公共交通は、JR 奥羽本線や五能線と路線バス、デマンド型乗合タクシーがあり、東能代駅を結節点として運行され、隣接の能代中央地域や二ツ井地域のほか、他都市と連絡しています。

表 公園・緑地および土地区画整理事業の整備状況

公園・緑地	種別	箇所数	面積[ha]	備考
	街区公園	0	0.00	※2021年3月31日時点
	近隣公園	0	0.00	
	地区公園	0	0.00	
	総合公園	0	0.00	
	都市緑地	0	0.00	
	合計	0	0.00	
	1人当たり	0.00m ² /人		
土地区画整理事業	地区名	施行面積[ha]	換地公告年月	備考
	東能代駅前	2.4	2005年8月	※2021年3月31日時点
	能代工業団地	92.7	1982年3月	

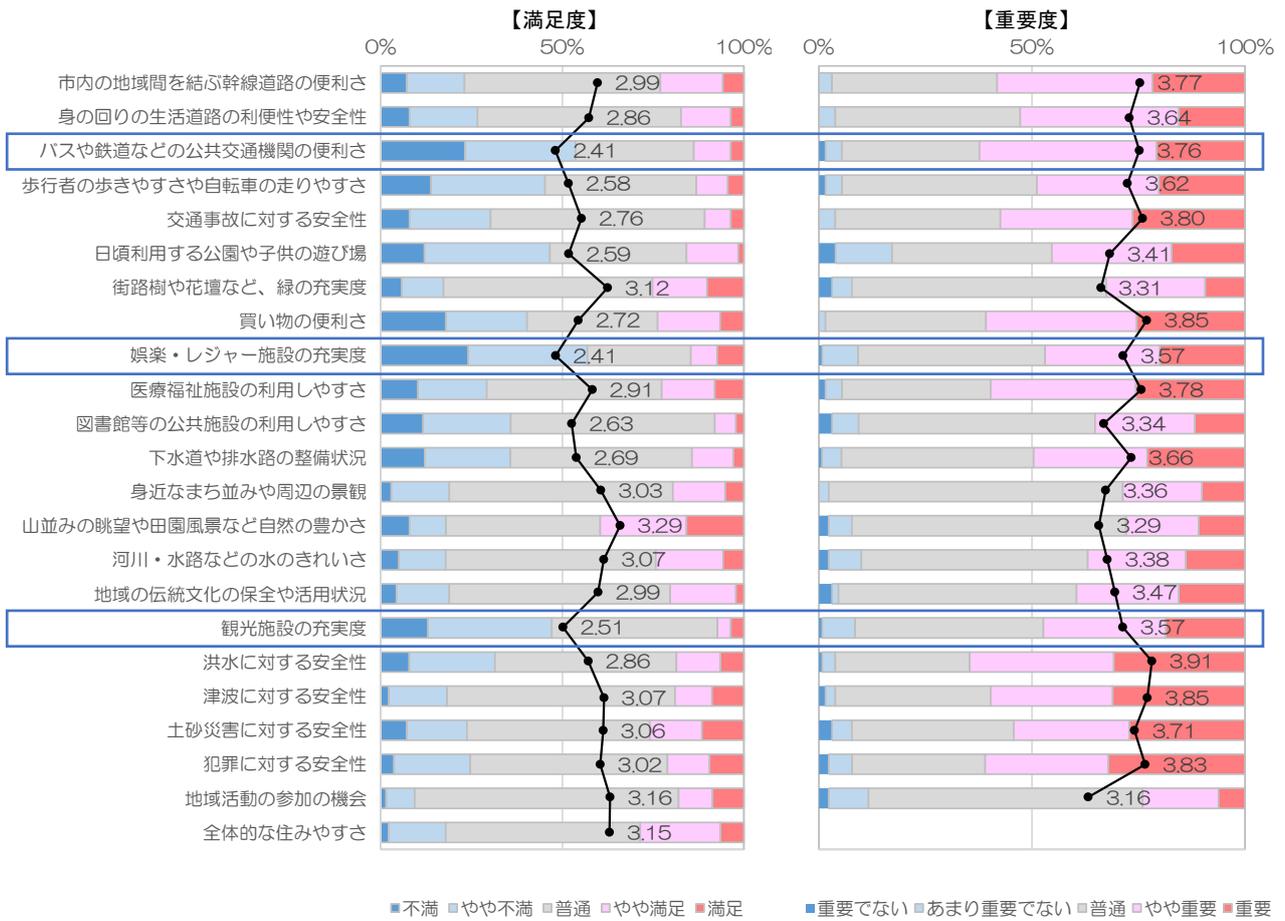
図 公園・緑地の位置



(4) 生活環境等

- ・ 東能代、檜山、鶴形の各地区では、市民参画のまちづくりを進めていくため、まちづくり協議会が組織されています。
- ・ 能代工業団地のほか、JR 奥羽本線以南の市街地の一部では、洪水の災害リスクを抱えています。また、山間部の集落は、土砂災害のリスクを抱えています。
- ・ 日常生活の満足度は、「公共交通機関の便利さ」および「娯楽・レジャー施設の充実度」が最も低く、次いで「観光施設の充実度」となっています。

図 日常生活についての評価



出典：まちづくりに関する「市民アンケート調査」（2020年9月、能代市）

4-3. 主要課題

- 東能代地区を対象とし、土地区画整理事業等で整備されたインフラや既存の生活サービス施設を活用し、良好な居住環境を維持していくことが必要です。
- 主要な集落である檜山地区や鶴形地区では、地域住民が主体となるまちづくり協議会を中心に、檜山安東氏城館跡や檜山舞、羽立ささら・鶴形ささら・常州下御供佐々楽（道地ささら）・鍼淵番楽、喜久水酒造地下貯蔵庫研究所など、歴史・文化、郷土芸能、自然といった地域資源を活用した地域振興を進めていくことが必要です。
- 地域に広がる農地や森林は、農業生産や林業生産のほか、環境や生物多様性の保全、水源のかん養等の多様な機能を維持・保全しながら、「檜山納豆」や「檜山茶」等を活用するなど、農林業の振興等を進めていくことが必要です。

4-4. 地域づくりの方針

(1) 土地利用

- ・ 東能代駅周辺は、鉄道駅に近接し、各種の生活サービス施設と住宅が混在した利便性の高い生活環境を維持します。
- ・ 東能代中学校跡地は、多様な活用手法を検討するなど、資産の有効活用を積極的に進めていきます。
- ・ 機織轆ノ目地区や鍼淵地区等の一般住宅地は、生活道路や上下水道など、必要な社会基盤の整備や機能維持を図り、良好な居住環境を保全します。
- ・ 用途地域内で、農地等の自然的土地利用が残存し、都市的土地利用として将来的な利活用の見込みがない地区においては、用途地域の適用除外を検討するなど、自然環境を保全します。
- ・ 国道7号のかいらげふち～東能代駅入口交差点周辺に位置する沿道商業・業務地は、現在の用途地域の指定範囲を基本とし、商業・観光・物流など、広域的な利用に対応した柔軟な土地利用を図ります。
- ・ その他の沿道商業・業務地は、自動車交通のアクセス性を活かした利便性の高い沿道型の市街地としての利用を継続しつつ、周辺の居住環境や営農環境のほか、中心商業・業務地への影響も考慮し、能代東 I.C.周辺の開発動向を踏まえた建物用途の制限のあり方などについて研究・検討を進めます。
- ・ 能代工業団地の工業地は、能代港や能代東 I.C.等の広域交通網に近接した立地を活かし、周辺の自然環境と調和した操業環境の維持・向上を図ります。
- ・ 主要な集落である檜山、鶴形の各地区では、周辺の小規模集落を含めた生活圏の中心地として、日常生活を支える生活サービス施設や道路等の社会基盤など、地域の実情に合わせた必要な機能を維持・確保するとともに、歴史・文化、郷土芸能、自然といった地域資源を活用し、地域住民等との協働による魅力ある地域づくりを促進します。
- ・ 農山村集落地は、周辺の自然環境や営農環境を保全しつつ、生活環境の維持を図ります。また、首都圏等からの移住者の受け入れを促進するとともに、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- ・ 農地は、効率的で安定的な農業経営に資するよう、ほ場整備事業等を推進し、担い手への農地の集積を進めます。

- ・ 市街地の外延化の抑制および中心拠点への都市機能や居住の誘導を支援するため、将来的に市街化圧力の高まりが予想される農地を対象に、都市計画制度の活用による土地利用規制の適用について検討します。
- ・ 森林は、林業生産の基盤として、また、保水や治山、レクリエーション等の多様な機能を保全するため、地域住民、NPO、企業、各種団体等が実施するボランティアや地域活動等に対し、支援を行います。

(2) 都市施設および公共交通

- ・ 都市計画決定された幹線街路は、計画的な整備を推進するほか、長期間にわたり事業着手がなされていない路線については、必要性等を再検証し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を決定したうえで、計画の見直しを行います。
- ・ 生活道路は、安全上緊急性が高いものや老朽化対策が必要なものを中心とし、地域住民等の理解を得ながら整備および維持・改善を推進します。
- ・ JR 奥羽本線や五能線、路線バス、デマンド型乗合タクシーは、隣接地域や他都市と連絡する重要な移動手段として、その機能の維持や利便性の向上、利用促進を図ります。

(3) 生活環境等

- ・ 小友沼は、貴重な資源として保全するとともに、自然観察会や美化・保全活動など、守り・育てることに資する取組を支援します。
- ・ 自治会・町内会、自主防災組織等が設定した避難経路を中心とし、水害や土砂災害等のリスクを考慮した、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。
- ・ 市民の安全で円滑な避難に向けて、防災ハザードマップ（洪水、土砂災害等）等を活用し、想定される被害の範囲や規模、避難場所等の周知を図ります。
- ・ 自助・共助による自発的な防災活動の促進を図るため、自治会・町内会に対し、自主防災組織の結成促進や活動の充実・強化を働きかけるとともに、組織と連携した訓練や出前講座等を実施します。

図 位置図



5. 能代南部地域

5-1. 地域の概況

- 本地域は、市の南部に位置する地域で、能代中央地域に隣接する地域の北側に、住宅を中心とした市街地が形成されています。沿岸部には、木材工業団地（内陸部）や能代市技術開発センター・能代市木の学校など、本市の代表的な資源である「木」に関連した施設が立地しています。また、能代ロケット実験場や風力発電施設が立地しています。
- 平野部に稲作を中心とした農地が広がっているほか、砂丘地帯ではネギを中心とした畑作が盛んに行われています。

5-2. 地域の現況

(1) 人口動態

- ・ 2015年（平成27年）の人口は約6,700人で、人口減少率は他地域と比較して最も低くなっています。また、用途地域内の人口は約2,500人で、人口減少率は能代北部地域に次いで、2番目に低くなっています。
- ・ 2015年の高齢化率は31.9%、用途地域内では30.7%となっています。地域全体および用途地域のいずれの高齢化率も、他地域と比較して最も低くなっていますが、過去10年間の上昇率は最も高くなっています。

表 人口動態

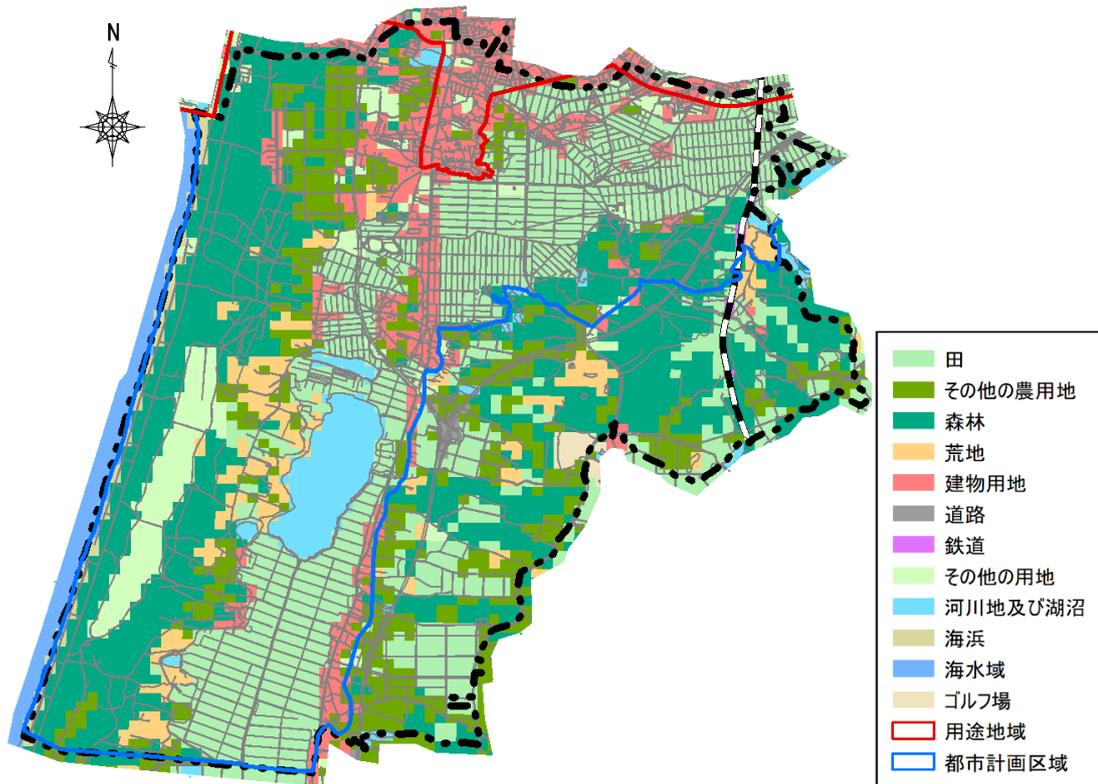
		H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	備考
地域全体	面積	[ha]	3,882.17		
	人口	[人]	7,372	7,199	6,791
	人口増減率	[%]	-	97.7%	92.1%
	世帯数	[世帯]	2,515	2,587	2,572
	平均世帯人員	[人/世帯]	2.9	2.8	2.6
	人口構造[人]	0～14歳	1,019	954	755
		15～64歳	4,699	4,375	3,867
		65歳以上	1,654	1,870	2,169
	人口構造[%]	0～14歳	13.8%	13.3%	11.1%
		15～64歳	63.7%	60.8%	56.9%
65歳以上		22.4%	26.0%	31.9%	
用途地域	面積	[ha]	113.90		
	人口	[人]	2,803	2,756	2,599
	人口増減率	[%]	-	98.3%	92.7%
	人口密度	[人/ha]	24.61	24.20	22.82
	人口構造[人]	0～14歳	399	376	297
		15～64歳	1,832	1,702	1,504
		65歳以上	573	678	797
	人口構造[%]	0～14歳	14.2%	13.6%	11.4%
		15～64歳	65.3%	61.7%	57.9%
		65歳以上	20.4%	24.6%	30.7%

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

(2) 土地利用

- ・ 日本海に面した平野部を中心に都市計画区域が指定されており、用途地域外の大半は、森林や農地等の自然的土地利用となっています。用途地域内は、住宅用地のほか、幹線道路沿道などに位置する商業用地や工業用地の割合が高くなっています。
- ・ 用途地域内の国道7号等の幹線道路沿道に、福祉・商業・子育て支援施設が分布しています。
- ・ 沿岸部に、木材工業団地（内陸部）が整備されています。
- ・ 地域内の主要な集落である浅内地区に、小学校や郵便局、診療所等が立地しています。

図 土地利用の概況



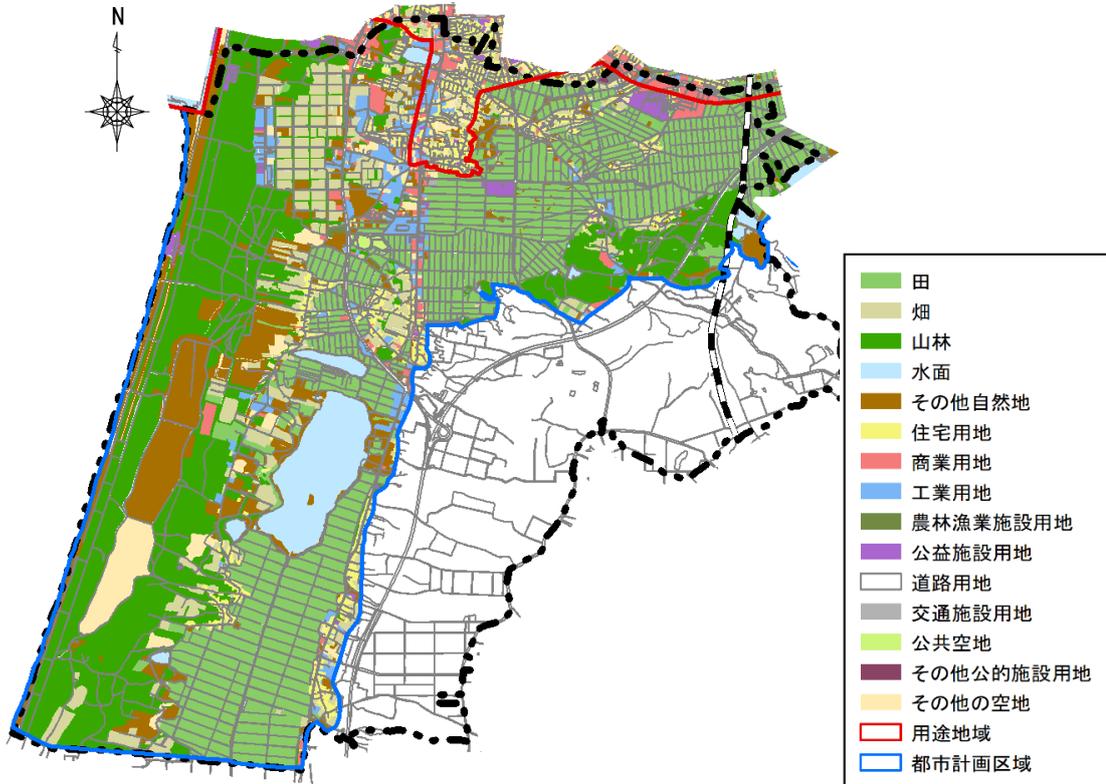
出典：2016年土地利用細分メッシュ（国土交通省）

表 用途地域内の土地利用構成

		面積[ha]	構成比	備考
自然的 土地利用	農地			
	田	5.8	5.2%	
	畑	7.4	6.6%	
	山林	0.3	0.3%	
	水面	1.6	1.4%	
	その他自然地	5.1	4.5%	
	(小計)	20.1	17.9%	
都市的 土地利用	住宅用地	39.5	35.2%	
	商業用地	19.8	17.6%	
	工業用地	9.9	8.8%	
	農林漁業施設用地	0.0	0.0%	
	公益施設用地	2.1	1.8%	
	道路用地	11.1	9.9%	
	交通施設用地	0.0	0.0%	
	公共空地	0.8	0.7%	
	その他公的施設用地	0.1	0.1%	
	その他の空地	8.9	7.9%	
		(小計)	92.3	82.1%
合計		112.4	100.0%	
開発許可	(H18-H26)	0.00	-	

出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

図 土地利用現況図



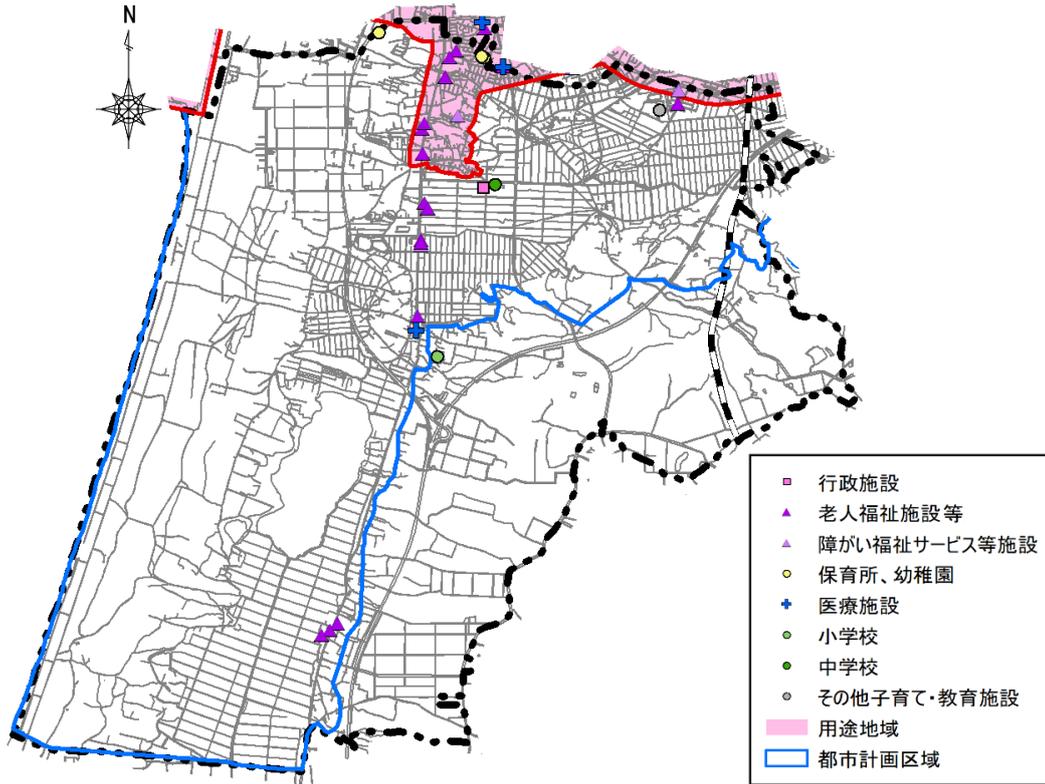
出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

表 公共公益施設等の立地状況

行政施設	能代市南地域センター、能代市南部公民館
介護・福祉施設	老人福祉施設等（17箇所）、障がい福祉サービス等施設（7箇所）
子育て支援施設	留守家庭児童会あさない、認可保育所（2箇所）、さかき幼稚園
医療施設等	浅内診療所
教育・文化・交流施設	能代市立浅内小学校、能代市立能代南中学校、秋田県立能代高等学校

※2020年12月末時点

図 公共公益施設等の立地状況



※2020年12月末時点

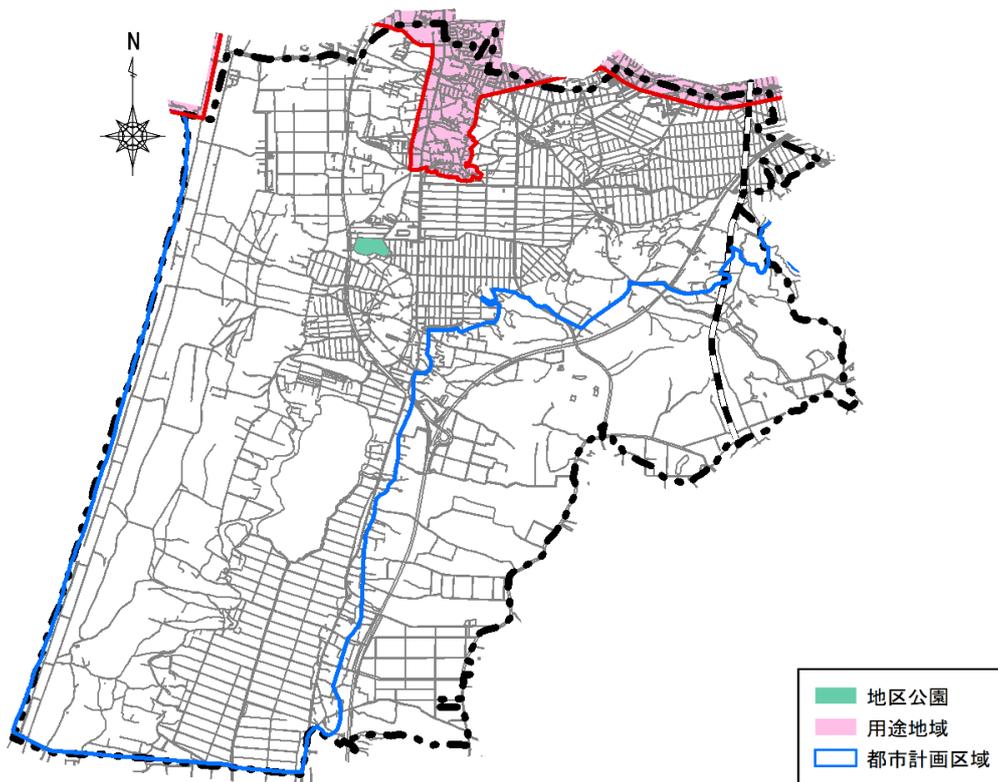
(3) 都市施設および公共交通

- ・ 長期に未着手となっている都市計画道路が残されています。
- ・ 公共交通は、路線バスとデマンド型乗合タクシーが運行されており、隣接する能代中央地域や他都市と連絡しています。

表 公園・緑地および土地区画整理事業の整備状況

公園・緑地	種別	箇所数	面積[ha]	備考
	街区公園	0	0.00	
	近隣公園	0	0.00	
	地区公園	1	5.33	
	総合公園	0	0.00	
	都市緑地	0	0.00	
	合計	1	5.33	
	1人当たり	7.85m ² /人		
土地区画整理事業	地区名	施行面積[ha]	換地公告年月	備考
	-			※2021年3月31日時点

図 公園・緑地の位置

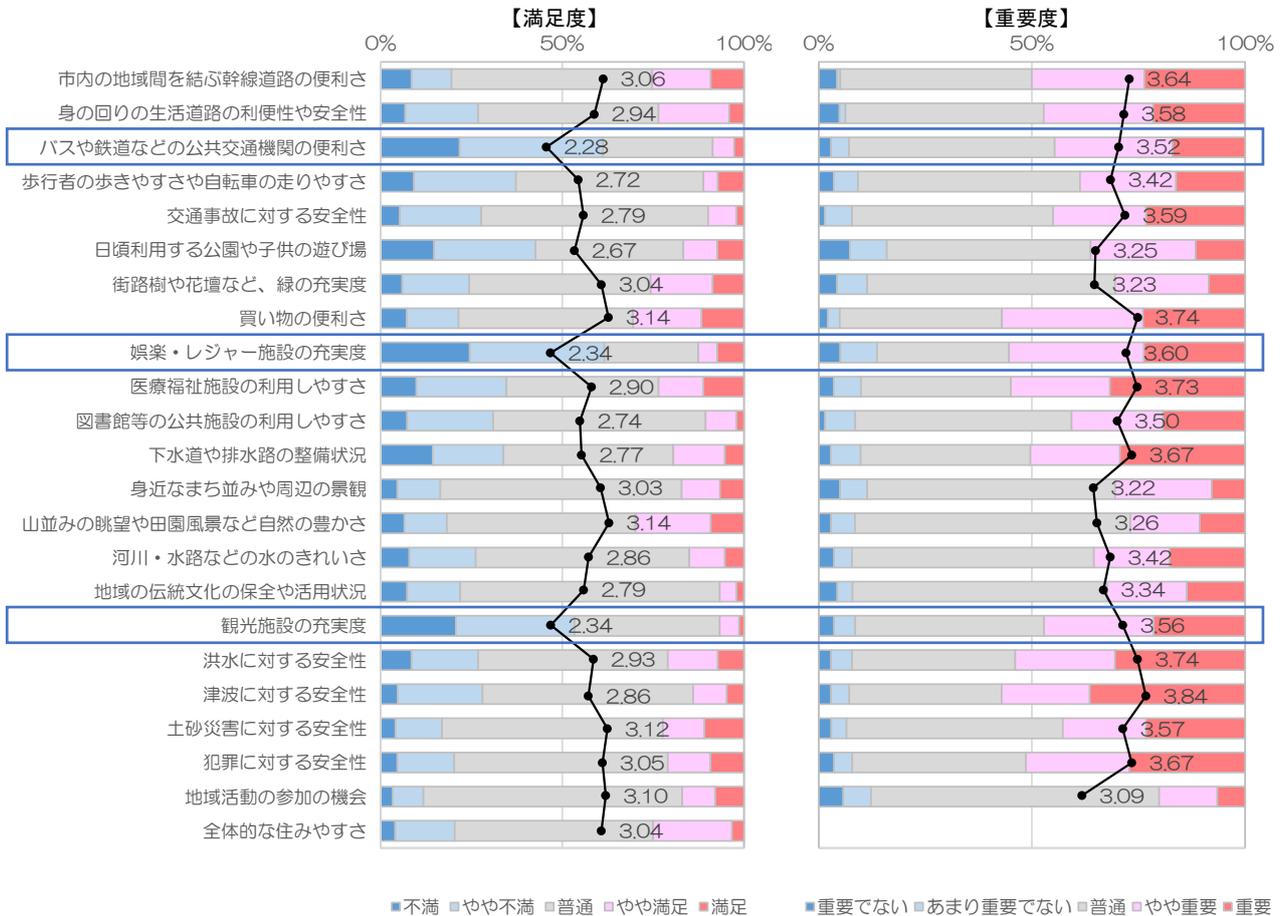


※2021年3月末時点

(4) 生活環境等

- 日本海に面した地域であるものの、風の松原により、市街地や集落への津波被害は予想されていません。一方、悪土川の沿川を中心に洪水の災害リスクを抱えています。
- 日常生活の満足度は、「公共交通機関の便利さ」が最も低く、次いで「娯楽・レジャー施設の充実度」「観光施設の充実度」となっています。

図 日常生活についての評価



出典：まちづくりに関する「市民アンケート調査」(2020年9月、能代市)

5-3. 主要課題

- 主要な集落である浅内地区は、現在の生活環境を保全していくため、地区内に立地する医療や商業等の生活サービス施設を維持していく必要があります。
- 能代木材工業団地（内陸部）や風力発電施設、森林や農地等を活用した産業振興や地域振興を進めていく必要があります。
- 市街地周辺に広がる農地は、農業生産活動のほか、環境や生物多様性の保全、水源のかん養等の多様な機能を維持・保全しながら、能代市随一の広さを誇るねぎ畑や農産物直売所「ねぎっこ村」等を活用するなど、農業振興等を進めていく必要があります。

5-4. 地域づくりの方針

(1) 土地利用

- ・ 長崎地区や河戸川地区等の一般住宅地は、生活道路や上下水道など、必要な社会基盤の整備や機能維持を図り、良好な居住環境を保全します。
- ・ 国道7号芝童森交差点以南の市道沿道の沿道商業・業務地は、北側区間は商業機能、南側区間は産業・業務機能を中心とし、住宅地や能代南 I.C.との近接性を活かした土地利用を維持します。
- ・ 国道7号沿道の沿道商業・業務地は、自動車交通のアクセス性を活かした利便性の高い沿道型の市街地としての利用を継続しつつ、周辺の居住環境や営農環境のほか、中心商業・業務地への影響も考慮し、能代東 I.C.周辺の開発動向を踏まえた建物用途の制限のあり方などについて研究・検討を進めます。
- ・ 能代木材工業団地（内陸部）の工業地は、臨海部と合わせ、秋田県立大学木材高度加工研究所など、産・学・官・金が連携した取組を促進します。
- ・ 主要な集落である浅内地区では、周辺の小規模集落を含めた生活圏の中心地として、日常生活を支える生活サービス施設や道路等の社会基盤など、地域の実情に合わせた必要な機能を維持・確保するとともに、周辺の農地等を活用し、地域住民等との協働による魅力ある地域づくりを促進します。
- ・ 農山村集落地は、周辺の自然環境や営農環境を保全しつつ、生活環境の維持を図ります。また、首都圏等からの移住者の受け入れを促進するとともに、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- ・ 農地は、効率的で安定的な農業経営に資するよう、ほ場整備事業等を推進し、担い手への農地の集積を進めます。
- ・ 市街地の外延化の抑制および中心拠点への都市機能や居住の誘導を支援するため、将来的に市街化圧力の高まりが予想される農地を対象に、都市計画制度の活用による土地利用規制の適用について検討します。

(2) 都市施設および公共交通

- ・ 都市計画決定された幹線街路は、計画的な整備を推進するほか、長期間にわたり事業着手がなされていない路線については、必要性等を再検証し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を決定したうえで、計画の見直しを行います。
- ・ 生活道路は、安全上緊急性が高いものや老朽化対策が必要なものを中心とし、地域住民等の理解を得ながら整備および維持・改善を推進します。
- ・ 路線バスやデマンド型乗合タクシーは、隣接地域や他都市と連絡する重要な移動手段として、その機能の維持や利便性の向上、利用促進を図ります。

(3) 生活環境等

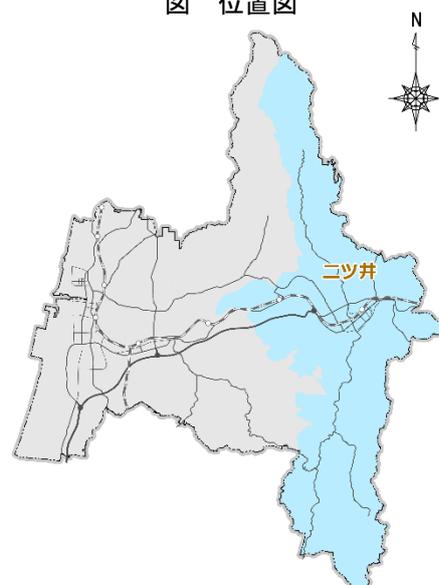
- ・ 風の松原や一ノ沢堤は、貴重な資源として保全するとともに、自然観察会や美化・保全活動など、守り・育てることに資する取組を支援します。
- ・ 自治会・町内会、自主防災組織等が設定した避難経路を中心とし、水害や土砂災害等のリスクを考慮した、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。
- ・ 市民の安全で円滑な避難に向けて、防災ハザードマップ（洪水、土砂災害等）等を活用し、想定される被害の範囲や規模、避難場所等の周知を図ります。
- ・ 自助・共助による自発的な防災活動の促進を図るため、自治会・町内会に対し、自主防災組織の結成促進や活動の充実・強化を働きかけるとともに、組織と連携した訓練や出前講座等を実施します。

6. ニツ井地域

6-1. 地域の概況

- 本地域は、市の東側に位置する地域で、米代川と JR 奥羽本線に挟まれた範囲に、居住機能のほか、商業や文化・交流機能、行政機能が集積しています。
- 地域の東側に原生林の七座山やきみまち阪県立自然公園、北側に世界自然遺産白神山地と連なるブナ原生林、南側に仁鮎水沢スギ希少個体群保護林があり、豊かな森林が広がっています。
- 清徳寺や银杏山神社など、歴史ある寺社等が多くあるほか、各地区に遺跡も分布しています。

図 位置図



6-2. 地域の現況

(1) 人口動態

- ・ 2015年（平成27年）の人口は約8,900人で、人口減少率は能代北東部地域に次いで、2番目に高くなっています。また、用途地域内の人口は約3,300人で、人口減少率は他地域と比較して最も高くなっています。
- ・ 2015年の高齢化率は44.7%で、他地域と比較して最も高くなっており、用途地域についても、同様の傾向となっています。

表 人口動態

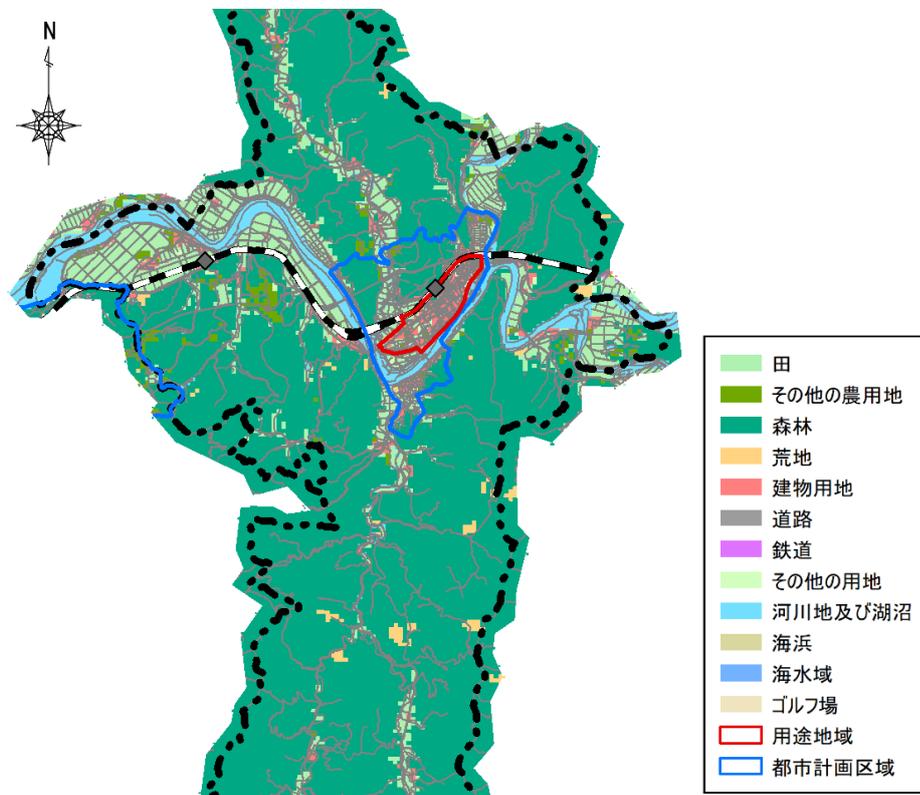
		H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	備考
地域全体	面積	[ha]	18,121.79		
	人口	[人]	11,137	10,126	8,908
	人口増減率	[%]	-	90.9%	80.0%
	世帯数	[世帯]	3,886	3,687	3,451
	平均世帯人員	[人/世帯]	2.87	2.75	2.58
	人口構造[人]	0～14歳	1,107	887	662
		15～64歳	6,019	5,236	4,265
		65歳以上	4,010	4,004	3,982
	人口構造[%]	0～14歳	9.9%	8.8%	7.4%
		15～64歳	54.0%	51.7%	47.9%
65歳以上		36.0%	39.5%	44.7%	
用途地域	面積	[ha]	201.35		
	人口	[人]	3,993	3,708	3,305
	人口増減率	[%]	-	92.9%	82.8%
	人口密度	[人/ha]	19.83	18.41	16.41
	人口構造[人]	0～14歳	435	365	293
		15～64歳	2,186	1,901	1,600
		65歳以上	1,372	1,442	1,412
	人口構造[%]	0～14歳	10.9%	9.9%	8.9%
		15～64歳	54.8%	51.3%	48.4%
		65歳以上	34.4%	38.9%	42.7%

出典：各年国勢調査 100mメッシュ

(2) 土地利用

- ・ 二ツ井駅を中心とした市街地の周辺に都市計画区域が指定されていますが、地域の大半は、森林や農地等の自然的土地利用となっています。用途地域内は、住宅用地や公益施設用地の割合が高い一方で、農地の割合も高くなっています。
- ・ 二ツ井駅周辺の中心部に、医療・福祉・商業・子育て支援施設のほか、行政施設等の生活サービス施設が集積して立地しています。
- ・ 防災・地域福祉・産業振興・インバウンド観光のための機能を担う、道の駅ふたついが立地しています。
- ・ 二ツ井白神 I.C.周辺に烏野工業団地が、米代川沿川に沢口工業団地がそれぞれ整備されています。
- ・ 富根地区に主要な集落が形成されており、二ツ井公民館富根分館やブナの森ふれあい伝承館といった交流・文化機能が立地しています。

図 土地利用の概況



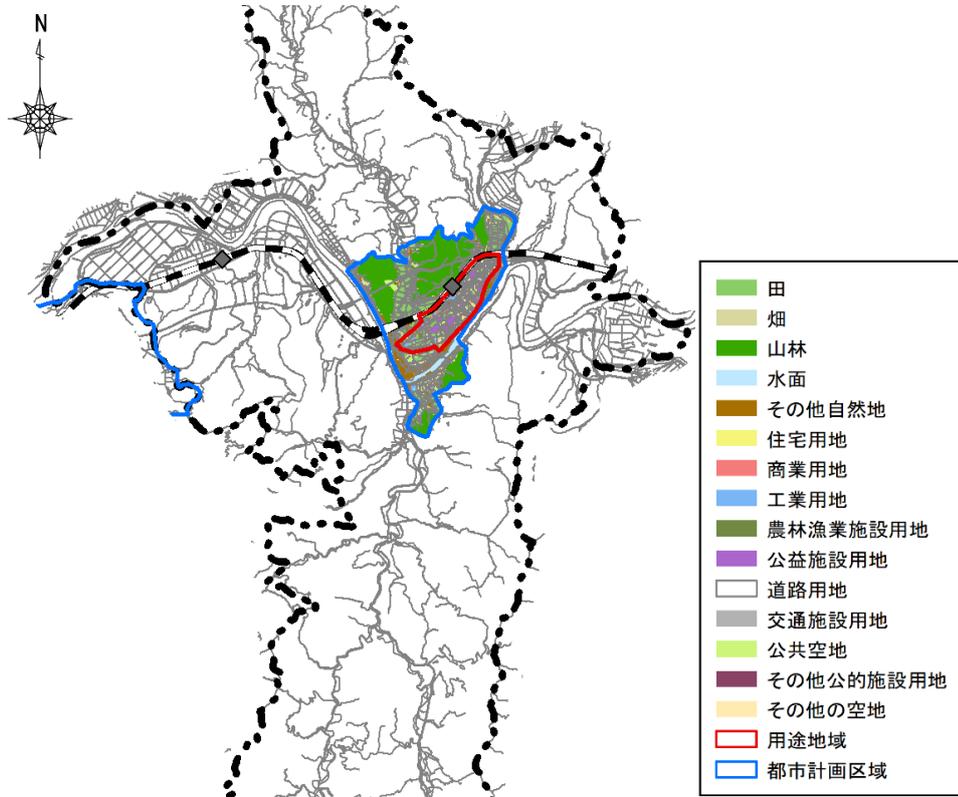
出典：2016年土地利用細分メッシュ（国土交通省）

表 用途地域内の土地利用構成

		面積[ha]	構成比	備考
自然的 土地利用	農地			
	田	32.2	16.2%	
	畑	14.0	7.1%	
	山林	0.0	0.0%	
	水面	1.2	0.6%	
	その他自然地	7.8	3.9%	
	(小計)	55.3	27.8%	
都市的 土地利用	住宅用地	52.3	26.3%	
	商業用地	12.1	6.1%	
	工業用地	16.4	8.2%	
	農林漁業施設用地	1.3	0.7%	
	公益施設用地	25.9	13.0%	
	道路用地	22.2	11.2%	
	交通施設用地	5.2	2.6%	
	公共空地	3.5	1.8%	
	その他公的施設用地	0.0	0.0%	
	その他の空地	4.6	2.3%	
		(小計)	143.4	72.2%
合計		198.7	100.0%	
開発許可	(H18-H26)	1.16	-	

出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

図 土地利用現況図



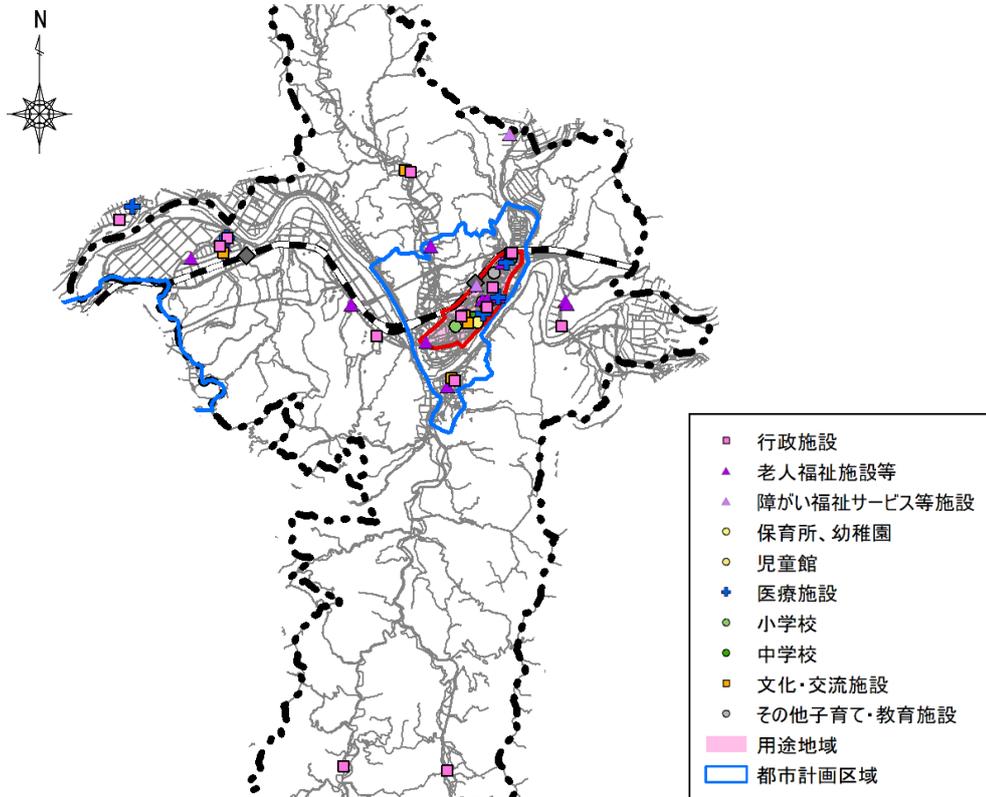
出典：都市計画基礎調査（2016年3月）

表 公共公益施設等の立地状況

行政施設	能代市二ツ井町庁舎、能代市富根出張所、公民館（10箇所）
介護・福祉施設	老人福祉施設等（13箇所）、障がい福祉サービス等施設（3箇所）
子育て支援施設	二ツ井児童クラブ、認可保育所（2箇所）、 二ツ井地域子育て支援センター「さんぼえむ」、二ツ井児童館
医療施設等	診療所（4箇所）
教育・文化・交流施設	能代市立二ツ井小学校、能代市立二ツ井中学校、能代高校二ツ井キャンパス、 二ツ井図書館、集会施設（4箇所）、体育館（2箇所）

※2020年12月末時点

図 公共公益施設等の立地状況



※2020年12月末時点

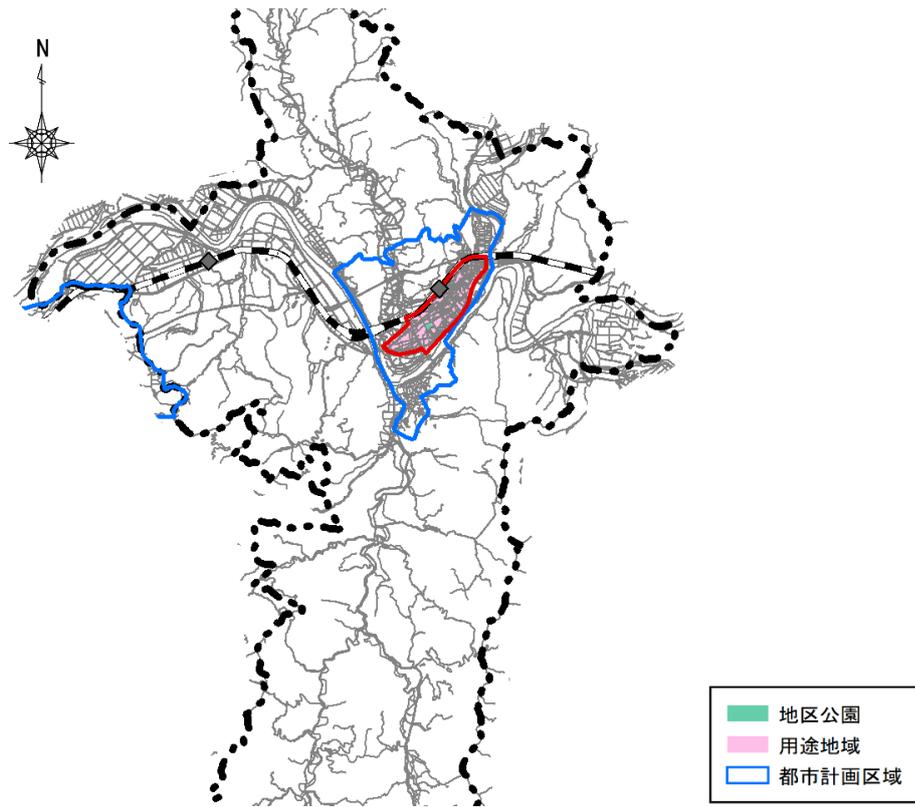
(3) 都市施設および公共交通

- ・ 長期に未着手となっている都市計画道路が残されています。
- ・ 公共交通は、JR 奥羽本線と路線バス、コミュニティバス、デマンド型乗合タクシーがあり、二ツ井駅を結節点として運行され、能代中央や能代東部の各地域のほか、他都市と連絡しています。

表 公園・緑地および土地区画整理事業の整備状況

公園・緑地	種別	箇所数	面積[ha]	備考
	街区公園	0	0.00	※2021年3月31日時点
	近隣公園	0	0.00	
	地区公園	1	4.40	
	総合公園	0	0.00	
	都市緑地	0	0.00	
	合計	1	4.40	
	1人当たり	4.94m ² /人		
土地区画整理事業	地区名	施行面積[ha]	換地公告年月	備考
	-			※2021年3月31日時点

図 公園・緑地の位置

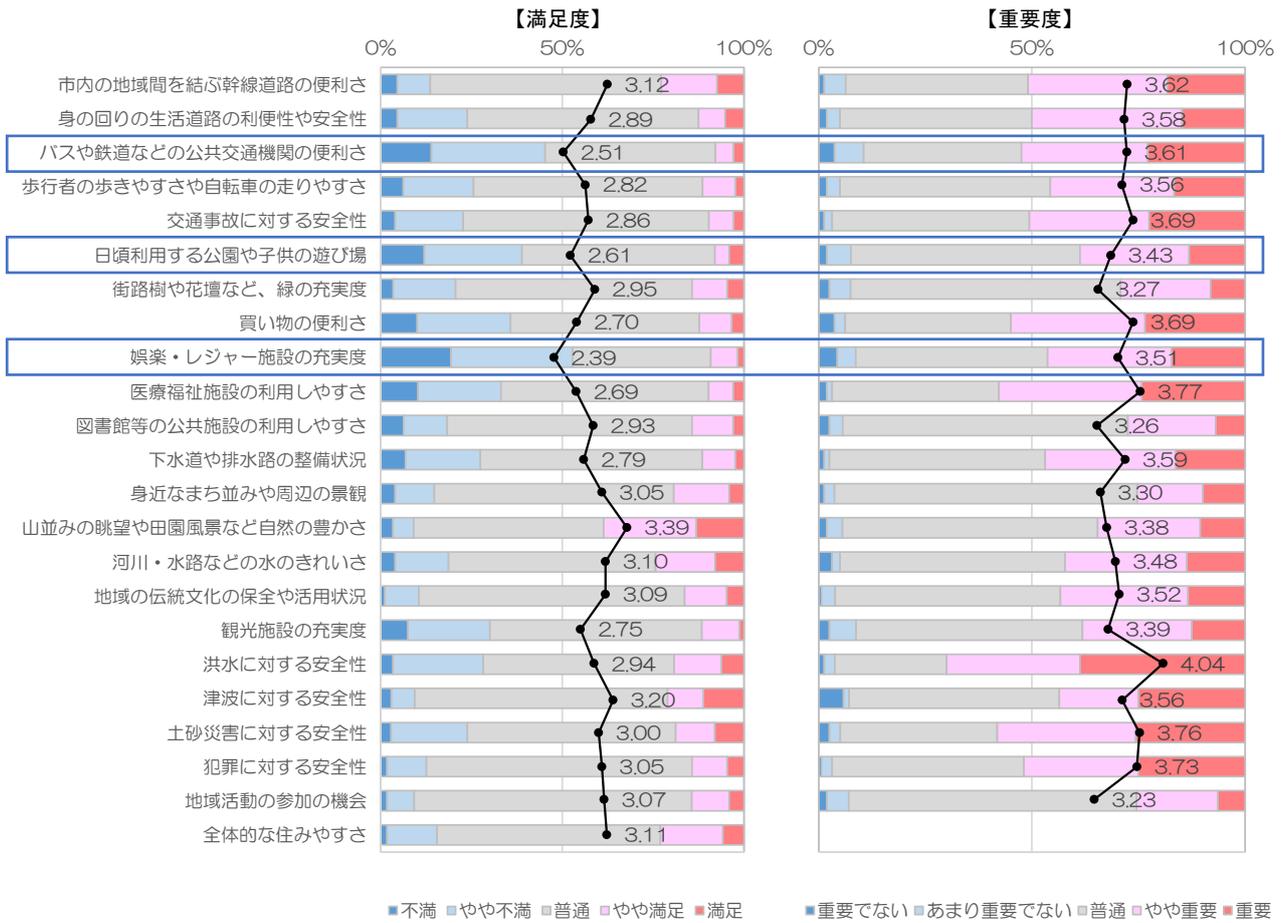


※2021年3月末時点

(4) 生活環境等

- ・ 中心部では、恋文すぽときみまちでの文化・交流活動やきみ恋軽トラ市の開催など、ソフト施策を中心ににぎわい形成や交流促進に取り組んでいます。
- ・ 用途地域内のほとんどの範囲で、洪水の災害リスクを抱えています。また、山間部の集落は土砂災害のリスクを抱えています。
- ・ 日常生活の満足度は、「娯楽・レジャー施設の充実度」が最も低く、次いで「公共交通機関の便利さ」「公園や子どもの遊び場」となっています。

図 日常生活についての評価



出典：まちづくりに関する「市民アンケート調査」(2020年9月、能代市)

6-3. 主要課題

- ニツ井駅周辺の中心部を対象とし、地域の中心性・拠点性の維持・向上に向けた、居住や生活サービス施設の誘導等を進めていくことが必要です。
- 烏野・沢口の各工業団地のほか、森林や農地等を活用した産業振興や地域振興を進めていくことが必要です。また、七座山やきみまち阪県立自然公園、日本一高い天然秋田杉、道の駅ふたついなど、地域資源の維持保全や活用を図っていくことが必要です。
- 洪水や土砂災害等の自然災害に対し、持続可能な中心拠点の形成を図るため、必要なハード整備とソフト対策を合わせた総合的な取組を進めていくことが必要です。

6-4. 地域づくりの方針

(1) 土地利用

- ・ ニツ井駅周辺の中心部は、地域の生活利便性を支える拠点として、医療・福祉・商業・子育て支援等の多様な機能の維持・充実を図るため、都市機能や居住を誘導します。また、都市機能や居住の誘導にあたっては、空き家・空き店舗のリフォーム・リノベーションや空き地の交流広場等への活用など、既存ストックの活用を支援します。
- ・ 用途地域内で、農地等の自然的土地利用が残存し、都市的土地利用として将来的な利活用の見込みがない地区においては、用途地域の適用除外を検討するなど、自然環境を保全します。
- ・ 一般県道西目屋ニツ井線の沿道は、自動車交通の利便性を活かし、地域の買い物需要を支える商業機能の維持・充実を図ります。
- ・ 烏野・沢口の各工業団地は、工業振興の中心地として、周辺環境との調和に配慮しつつ、操業環境を維持します。
- ・ 主要な集落である富根地区では、周辺の小規模集落を含めた生活圏の中心地として、日常生活を支える生活サービス施設や道路等の社会基盤など、地域の実情に合わせた必要な機能を維持・確保するとともに、周辺の農地や交流・文化機能等を活用し、地域住民等との協働による魅力ある地域づくりを促進します。
- ・ 農山村集落地は、周辺の自然環境や営農環境を保全しつつ、生活環境の維持を図ります。また、首都圏等からの移住者の受け入れを促進するとともに、地域コミュニティの維持・活性化を図ります。
- ・ 農地は、農業水利施設の有効活用や長寿命化を進めつつ、生産基盤の強化を図るなど、営農環境を維持します。
- ・ 世界自然遺産白神山地へと連なる森林は、林業生産の基盤として、また、保水や治山、レクリエーション等の多様な機能を保全するため、地域住民、NPO、企業、各種団体等が実施するボランティアや地域活動等に対し、支援を行います。
- ・ 米代川は、親水、自然学習、交流・連携等の機能の維持・充実を促進します。

(2) 都市施設および公共交通

- ・ 大館能代空港や能代港との連結による広域的なヒト・モノの交流拡大、市内の交通混雑の緩和、救急搬送時間の短縮等を図るため、二ツ井今泉道路の整備を促進します。
- ・ 地域間交流を支えるネットワークを構築するため、一般県道西目屋二ツ井線荷上場バイパスの整備を促進します。
- ・ 都市計画決定された幹線街路は、計画的な整備を推進するほか、長期間にわたり事業着手がなされていない路線については、必要性等を再検証し、「存続」「変更」「廃止」の方向性を決定したうえで、計画の見直しを行います。
- ・ 生活道路は、安全上緊急性が高いものや老朽化対策が必要なものを中心とし、地域住民等の理解を得ながら整備および維持・改善を推進します。
- ・ JR 奥羽本線や路線バス、コミュニティバス、デマンド型乗合タクシーは、能代中央や能代東部の各地域のほか、他都市と連絡する重要な移動手段として、その機能の維持や利便性の向上、利用促進を図ります。

(3) 生活環境等

- ・ ふたついで白神郷土の森等の森林は、貴重な資源として保全するとともに、グリーンツーリズムや自然観察会、美化・保全活動など、守り・育てることに資する取組を支援します。
- ・ 道の駅ふたついでを活用し、防災・地域振興・産業振興・インバウンド観光等の機能の維持・充実を進めます。
- ・ 地域住民、NPO、企業、各種団体等が実施する、道路や公園等の公共空間を活用したにぎわい形成等に資する取組を支援します。
- ・ 自治会・町内会、自主防災組織等が設定した避難経路を中心とし、水害や土砂災害等のリスクを考慮した、ハード対策・ソフト対策を組み合わせた必要な対策を推進します。
- ・ 市民の安全で円滑な避難に向けて、防災ハザードマップ（洪水、土砂災害等）等を活用し、想定される被害の範囲や規模、避難場所等の周知を図ります。
- ・ 自助・共助による自発的な防災活動の促進を図るため、自治会・町内会に対し、自主防災組織の結成促進や活動の充実・強化を働きかけるとともに、組織と連携した訓練や出前講座等を実施します。

図 地域づくりの方針図

